

BPW CSW インターン派遣事業

第 67 回 国連女性の地位委員会 インターン報告書



2023 年 3 月

認定 NPO 法人 日本 B P W 連合会

目 次

巻頭挨拶 日本 BPW 連合会理事長 名取はにわ.....	1
第 67 回 国連女性の地位委員会 (CSW67) について 連合会副理事長 布柴靖枝.....	2
第 20 回 CSW67 インターン派遣事業について プロジェクトリーダー 連合会副理事長 中山由美子.....	5
第 20 回インターンと共に 連合会副理事長 布柴靖枝.....	6
CSW67 パラレルイベント企画・開催を支援して 連合会ヤング委員長 ニノ宮寛子・連合会専務理事 藤田典子.....	7
CSW67 インターン派遣事業への支援について 連合会会計 佐藤道子	8
インターンによる報告	
1. インターン活動全体について	
1-1. はじめに・インターンの紹介.....	9
1-2. CSW インターンシップ概要.....	10
1-3. 特別活動	11
1-3-1. Leader' s Summit.....	11
1-3-2. Clare Future Dinner.....	11
1-3-3. UNICEF 職員・大久保智夫氏 訪問	12
1-3-4. 国際女性デーイベント.....	12
1-3-5. UNDP 職員・川瀬友裕氏・横井裕子氏 訪問	13
1-3-6. 住友化学アメリカ訪問.....	13
1-3-7. NGO モーニングブリーフィング	14
1-3-8. 国連日本政府代表部 NGO ブリーフィング	14
1-3-9. 外務省総合外交政策局女性参画推進室長 古本建彦氏との交流.....	15
1-3-10. BPW メンバーの方々・日本からの訪問団の皆様との交流	15
1-4. 現地でのスケジュール（共通するもの）	16
1-5. それぞれのインターンが参加したサイドイベント・パラレルイベント.....	16
2. 主催したパラレルイベントについて.....	22
2-1. パラレルイベントの概要.....	22
2-2. パラレルイベントの舞台裏ー企画のプロセス.....	24
2-3. 当日の様子	25
3. インターン一人一人からの報告.....	27
3-1. 奥崎鈴彩	27
3-2. 奥山千波	30
3-3. 西岡真由美	34
4. 現地情報について.....	39
2023 年 CSW68 インターン派遣募集要項	巻末

※ 出典（本報告書内のロゴやフライヤー）：UN Women のホームページ

(<https://www.unwomen.org/en/csw/csw67-2023>)



BPW CSW67 インターン派遣事業について

認定 NPO 法人日本 BPW 連合会理事長
名取 はにわ

本法人は、1951 年に創立され、2017 年 11 月 7 日に東京都から認定を受けて活動している NPO 法人である。また、BPW International（以下「IFBPW」という。）の傘下団体であり、IFBPW は国連経済社会理事会に対して総合的協議資格を有する国連 NGO である。

そういうわけで、IFBPW 幹部は、CSW に大挙して繰り込み、CSW 開催に先立ちリーダーズサミットを開催し、CSW 期間中に会員の交流を図るディナーを開催する。



IFBPW の環境委員長を務めたこともある平松昌子連合会前理事長が、アントワネット IFBPW 元会長に日本 BPW も若い女性のインターンを派遣したいと相談して、2003 年度から CSW インターン派遣事業が始まった。

だからこの報告書には、インターンが IFBPW の企画行事に参加したことも書かれている。

更に、今回はフィッシュファミリー財団創設者のフィッシュ・東光・厚子さんから「平松昌子メモリアル基金」としてインターン派遣事業が補助されることとなり、インターンは、CSW 会期中に、パラレルイベントを実施することとなった。

派遣事業史上初めてである。

日本 BPW 連合会は、2022 年夏、2023 年 3 月に開催される CSW67 インターンの公募を行い、奥崎鈴彩さん、奥山千波さん、西岡真由美さん（五十音順）を選んだ。

初めてのパラレルイベントの準備段階にて、2022 年 12 月、CSW66 インターンの奥山さんが、NVEC（国立女性教育会館）フォーラムにおいて「ユースと考えるジェンダーの主流化～男女平等社会に向けた横断的アプローチ～」*を開催した。CSW67 インターンは、これを大幅にブラッシュアップして、CSW パラレルイベントに臨んだ。

「ジェンダー主流化」という難しいテーマを中心に据えて、国内、国際と二つのイベントを成功させた奥山さんをはじめとするインターン 3 人の努力について、敬意を表するものである。特にパラレルイベントについては、是非本文をお読みいただきたい。

また、インターンに同行し、国連、IFBPW、日本政府、日本企業の要人と面談する機会を準備した CSW67 インターン派遣事業プロジェクトリーダー中山由美子副理事長、布柴靖枝副理事長のご尽力を讃えたいと思う。

* NVEC 男女共同参画推進フォーラムへの出展については BPW のホームページ参照
<https://bpw-japan.jp/japanese/nwec.html>



第 67 回国連女性の地位委員会について

日本 BPW 連合会副理事長（国際担当） 布柴 靖枝

第 67 回国連の女性の地位委員会は、3 月 6 日から 17 日の日程で NY の国連本部で開催された。COVID-19 パンデミックの影響で、過去 3 回にわたりオンライン開催が主であった（CSW64 は初日のみ開催、CSW65 は全面オンライン、CSW66 は部分的にリアル開催でほぼオンライン）ため、4 年ぶりに国連本部での参加となった。CSW は、今や UNGA（国連総会）について 2 番目に大きな会合となっている。

今年は、With コロナとはいえ、対面参加だけで約 7000 名の NGO の参加者と、200 のサイドイベント、700 のパラレルイベントが開催されたという。加盟国レベルでは 181 か国の参加と 2 名の副総理の出席と 116 名の大臣の参加があり、CSW への関心の高さが表れている。

今回の優先テーマは、「ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成のためのデジタル時代における革新、技術変革及び教育」で、レビューテーマは、CSW62 の合意結論「ジェンダー平等と農山漁村女性と女兒のエンパワーメントを達成する際の課題と機会」であった。議長は、今年で 2 年目の南アフリカ共和国の Mathu Joyini さんが務めた。

今回の CSW は、2022 年 2 月 24 日から始まったロシアのウクライナへの軍事侵攻という重苦しい事態の中で、安全保障理事会、総会における数々の緊急臨時会議と並行しての開催となった。国連事務総長のアントニオ・グテーレス氏も、「ウクライナやアフガニスタンなどの人権状況は、就任期間中で最も深刻な事態であり、ここ数十年の努力は大幅に後退し、このままていくとジェンダー平等社会に向けてさらに 300 年かかることになる。一刻も早い解決に向けた各国の団結が強く求められる」と開会のあいさつで述べていた。

また、2 週間にわたる協議ののち採択された合意文書に対して、UN Women のシマ・サミ・バフース事務局長は、「今回の合意文書は、あらゆる多様性を持つ女性と女兒にとって、さらに平等を推し進めるゲームチェンジをもたらすものとなっており、これらの合意文書の実現に向けて前進していくことが、CSW67 に集った私たちの務めである」と語り、閉会となった。最終日 17 日は、合意文書に至るまで、閉会予定時刻を超え、18 日午前 3 時半近くまで熱い議論がなされたという。

尚、3 月 13 日には、CSW で初めて公式会合として Youth Interactive Dialogue（ヤング公式会合）が開催され、日本からは政府代表団ユース代表の JAWW の草薙柚季さんが選ばれスピーチをした。また、日本 BPW 独自の取り組みとしては、BPW インターンがパラレルイベントを初めて企画し、開催したことも今回特筆すべき点である。

【合意結論の要旨】

優先テーマに従って、前年秋に専門家により検討された原案（ゼロ Draft 序文+5 項目）をもとに検討が始められ、最終的には 93 項目まで拡大したものが最終合意文書として採択された。まずは、北京宣言と行動綱領の完全かつ効果的で迅速な実施が、2030 アジェンダ

の実施、並びに、ジェンダー平等および女性と女児のエンパワメントの達成に極めて重要であることの再確認から始まっている。続いて、今回の優先テーマである全ての女性と女児が、安価でアクセス可能な技術やインターネットへの平等なアクセス、デジタルリテラシー、資金、能力開発を促進し、ジェンダーデジタル格差（ジェンダーにより利用できる人とそうでない人との格差）の解消に向けて取り組むことの重要性や、気候変動対策や意思決定への女性のリーダーシップ、完全かつ意味のある平等な参加を増やすよう奨励することが強調されている。また、テクノロジーは、女性・女児の政治的、経済的、社会的および文化的権利の完全な実現を促進するために活用できる一方で、ジェンダーの固定観念や否定的な社会規範を永続させ、不平等がデジタルツールを通じて増幅され永続する悪循環を生み出すために使用されることも認識し、開発過程から女性が参画することの重要性、そのための教育の重要性が強調されている。

そして、パンデミックによる経済的・社会的影響が、世界的な食糧安全保障危機、気候変動、環境悪化、災害の影響をさらに拡大し、人々をさらに追い詰め極貧状態に追い込み、多くの途上国が債務危機の高いリスクにあるか既に陥っていること。また、貧しい人々や、周縁化された立場の弱い人々が最も大きな打撃を受け、情報通信技術へのアクセスが最も遅れていること。これらの要因が制度的、構造的な障壁と組み合わさることで、女性と女児にとって不平等がもたらされていることが示された。さらに、無償の介護や家事労働に対する需要の増加や、性暴力・ジェンダーに基づく暴力[Sexual and Gender-Based Violence]を含むあらゆる形態の暴力の急増が報告されていることについて、深い懸念が表明されている。

合意文書には、あらゆるステークホルダーが取り組むべき課題として次のような内容が示された。

- ① 男女（ジェンダー）のデジタル格差を解消するためデジタルの公平性を優先すること。
- ② ジェンダー平等とすべての女性と女児のエンパワメントの実現に向けた包括的なデジタルトランスフォーメーションとイノベーションのための資金調達。
- ③ デジタル時代のジェンダー対応型デジタル教育・科学技術教育の育成。
- ④ テクノロジーとイノベーションにおける女性の完全かつ平等で有意義な参加とリーダーシップ、そして完全雇用の促進。
- ⑤ ジェンダーに対応した技術設計・開発・展開のための女性の採用。
- ⑥ デジタル時代の公平性、透明性、説明責任の強化。
- ⑦ テクノロジーの使用を通じて起こる、あるいは増幅されるジェンダーに基づく暴力を含むあらゆる形態の暴力を防止し、根絶する。

全般的に、今回の CSW67 では、トルコ・シリアの大地震、ロシアのウクライナ侵攻、アフガニスタン、イラン情勢、コロナなどジェンダー平等社会を大きく後退させる複数の危機が生じており、その中でバックラッシュが起こっている国々も少なくないことが多く報告されていた。また、ジェンダー平等社会を構築するための基礎資料となる男女の統計を取ることの重要性と共に、性の多様性（LGBTIQ+など名称）に関する議論も多くなされ、女性問題と LGBTIQ+などの問題は周縁化されてきたという点で共通点があり、交差性の問題（複数の不利益を被ること）も大きく取り上げられていた。

◆サイドイベント◆

日本 BPW 連合会が加盟する国内の 3 NGO 団体と日本政府国連代表部との共催事業として実施されてきたサイドイベントも、昨年に引き続き、オンラインで実施することになった。今回は 3 NGO 団体のうち、国際婦人年連絡会が担当した。

実施日時 2023 年 3 月 8 日（水）9:00 - 10:30（JST、東京）、3 月 7 日（火）19:00 - 20:30（EST、ニューヨーク）

テーマ「イノベーションとテクノロジーの変革による女性のエンパワーメント：女子大学工学部は万能薬？」 “Transforming Innovation and Technology to Empower Women and Girls: Is Establishing New Faculties of Engineering at Women’s Universities the Panacea for Gender Equality

サイドイベントのチラシ

The poster is titled "CSW67 Side Event, Japan" and features logos for IWY LG, JAWW, and the National Women's Committee of the United Nations. The main title is "Transforming Innovation and Technology to Empower Women and Girls: Is Establishing New Faculties of Engineering at Women's Universities the Panacea for Gender Equality?". It lists the following speakers and topics:

- Welcome remarks: H.E. Ms. Mitsuko SHINO / Ambassador Extraordinary & Plenipotentiary Deputy Permanent Representative of Japan to the United Nations (tbc)
- Moderator: Dr. Masako KAMIYA / Professor of Law, Gakushuin University
- Panelists & Titles:
 - Ms. Sayaka TANAKA / Waffle Co-Founder "Closing the Gender Gap by Empowering and Educating Women in the Technology Field"
 - Ms. Asumi SAITO / Waffle Co-Founder "On the Way to Normalize Women in Tech"
 - Mr. Takashi MATSUMOTO / Senior Specialist Lead of Deloitte Tohmatsu Consulting / Visiting Researcher of The University of Tokyo "Considering AI Service Management from Multi-stakeholder Values"
 - Dr. Atsuko SANO / Project researcher of the B'AI Global Forum / Interfaculty Initiative in Information Studies (IIS) at the University of Tokyo "Digital Transformation towards Gender Equality"
 - Mr. Najibullah KOHISTANI / Program Manager, JICA Afghanistan Office "JICA's Cooperation for Women's Education in Afghanistan"

Date & Time : March 7th (Tue.) 19:00-20:30 EST
ONLINE March 8th (Wed.) 9:00-10:30 JST

Register Online at:
https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_JSMgIN98TVu4jGxCoXB5VA

Co-sponsored by International Women's Year Liaison Group / Japan Women's Watch (JAWW) / The National Women's Committee of the United Nations NGOs / Permanent Mission of Japan to the United Nations

第 20 回 CSW67 インターン派遣事業について

CSW67 インターン派遣事業 プロジェクトリーダー
日本 BPW 連合会副理事長 中山 由美子

◆ インターン応募者について

2020 年からの COVID-19 蔓延で CSW64, 65, 66 の開催形式が大きく様変わりし、渡航しないまま開催されたが、今回の CSW67 では、オンライン、ハイブリッドを含めた対応になる様相があり、現地参加することとして募集しました。

過去 2 回のオンライン CSW インターン 4 名のうち、今回のリアル参加希望者を募り、2 名が参加することとなりました。加えて 1 名の応募がありました。新たな応募者には、従前どおり、応募申請書類内容について PT メンバー内で協議し、2022 年 9 月 25 日 20:00 から 40 分程度の ZOOM 面談を実施しました。

面談参加者：（敬称略順不同）

奥崎鈴彩 +BPW メンバー（布柴、林智意、二ノ宮、林乙羽、藤田典子、中山）

質問内容：英語で

- ・申請書に書かれていた内容について、かいつまんで英語で説明してもらう
- ・BPW について、知っていること、調べたことについて話してもらう
- ・BPW で何がしたいかを問う
- ・CSW 参加経験を今後どのように活かしていきたいかを問う

そのあと日本語で、今後対応して欲しいことを説明

- ・報告書の作成
- ・年内の NWECC での企画発表
- ・BPW が企画するイベント（報告会・企業との意見交換会・各地の BPW 活動）への参加
- ・将来ヤング BPW のメンバーとして BPW の活動に参加

面接終了後に奥崎さんには待機室で待ってもらい、プロジェクトメンバーで協議の結果、派遣にふさわしいことと、この機会を有効に生かせる人物として、審査合格を待機室から戻った本人に伝えました。

また、今回の奥崎さんの応募の背景には、直前に名取理事長が、北九州市立大にて講演の際、同大学の齊藤園子先生との会話の中で、CSW 派遣のことが話題にあがり、奥崎さんの担当教授にその情報が伝わったことで、実現しました。

11 月 2 日に、インターン及びプロジェクトメンバー全員で顔合わせの ZOOM 会議を開催し、事業のスタートを切りました。

第 20 回インターンと共に

日本 BPW 連合会副理事長 布柴 靖枝

今回は BPW でインターン事業がはじまって実に 20 回目の節目の年にあたります。記念すべき節目にインターンの皆様とご一緒でき、とても光栄に思っています。NY は、最も頻繁に訪れている都市の一つですが、NY に行くたびに、様々な立場で訪れた時の思い出がよみがえってきます。特に若手支援の一環として始まったこのインターン派遣事業の第 1 回～3 回目に、今は亡き平松昌子さんと一緒に NY に行ったことはとても思い出深いことです。当時は、始まったばかりのプロジェクトで、手探り状態で、より意義のあるプログラムにするためにどうしたものかと平松さんと NY で夢を熱く語ったことを懐かしく思い出します。このプロジェクトがその後 20 年続くとは、当時は予想もしなかったことです。ちなみに記念すべき第 1 回目に参加したインターンが、現在、日本 BPW 連合会で専務理事として大活躍の藤田（杏名）典子さんです。当時の願いが少しずつ、成果として形になっていくことは何よりの喜びです。

この事業も年を経て少しずつ形を変えプログラムもさらに充実したものになっています。特に今回は、長いコロナパンデミックから平常が戻りつつある NY で 20 回目にふさわしい新しい試みがいくつか行われました。1 つが初めてインターンが IFBPW のリーダーズサミットに出席し、IFBPW のメンバー（特にヤングメンバー）と交流を深めたことです。また、UNICEF、UNDP の国連職員や NY のグローバル企業を訪れたり、外務省古本建彦女性参画推進室長とも交流したり貴重な機会を得ました。そして、今回の最大の成果が、何とんでも CSW パラレルイベントをインターンが企画・運営するという快挙を成し遂げてくれたことでしょう。インターンが根気強く、綿密に打ち合わせを重ね、大成功を収めてくれました。プレッシャーと緊張感の中で、実によく頑張ってくれたと思います。

インターンとこのようにご一緒できるということは、役得であるとおくづく思います。奥山さんは海外で人道支援の仕事を、西岡さんはグローバルな視点から留学生の支援や女性の心理的支援を、奥崎さんは国内外で学びながらビジネスを極めようと夢をもってチャレンジしている姿に触れることができました。3 人とも自らの人生を創造していく強い意思と行動力とヴィジョンを兼ね備え、頼もしく、素晴らしいヤング達で、こちらがエネルギーを沢山もらったように思います。本報告書に目を通していただければ、彼女たちが何に関心を持ち、どのような体験をしたのかよくわかるかと思います。今回の体験を通して、これからどのような人生を展開していくのかとても楽しみです。次世代が生きようとする未来が、ジェンダー平等社会となり、平和のうちに一人一人がジェンダーに縛られることなく、生きがいを持って自分らしい人生を生きることができる社会になっていることを心から願っています。

（写真）2023 年 3 月 8 日世界女性デー（左から奥山さん・奥崎さん・西岡さん）



CSW67 パラレルイベント企画・開催を支援して

日本 BPW 連合会ヤング委員長 ニノ宮 寛子

日本 BPW 連合会専務理事 藤田 典子

日本 BPW 連合会にとって、はじめて尽くしの企画でしたが、インターンのみなさんの主体性に支えられ、時に導かれ、開催することができました。みなさんが、大舞台で堂々と自分の考えや思いを伝える姿に感動し、そして誇らしく思いました。以下に、企画・開催における支援者の役割およびスケジュールを記します。

1. 申請

11 月 18 日に NGO/CSW（パラレルイベントの運営者）より「申請開始（締切：12 月 2 日）」のメールが届きました。運営者設定のアプリケーションにて、申請項目「団体名、活動概要、申請者情報、イベント運営者情報、タイトル、概要、テーマ（選択式）、希望開催時期（CSW 会期の前半／後半の選択式）、希望の会場サイズ（対面のみ）、使用言語、通訳の有無、使用プラットフォーム（オンライン／ハイブリッドの場合）、宣伝の希望等」を入力し、\$125 のデポジットの支払いとともに登録。結果は年明けの 1 月 6 日（対面）、または 13 日（オンライン）までにメールで届くとありました。

2. 準備

支援者としてイベントの流れや発表内容の確認、Zoom 配信準備、広報、アンケート作成等を、特に 2 月末からは連日、急ぎの案件は LINE を利用して行いました。参加者登録では、Zoom 上の事前登録ツールを、日本からの参加者登録には Peatix（ピーティックス）を用いることで、ダイバーシティ・エデュケーター養成事業の過去の受講者にも広く宣伝することができました。広報ツールは、BPW の HP および Facebook、Instagram、全国の会員へのメール配信による拡散依頼、IFBPW や他団体の ML への拡散依頼等でした。

3. 前日リハーサル（3 月 8 日 8:00 EST）

NY からのオンライン配信は、滞在先ホテルの一室にインターンが集合して Zoom に接続するため、音声やインターネット配信速度等の確認を、開催時間と同時刻に行いました。現地引率の中山・布柴連合会副理事長の立ち会いのもと、問題がないことを確認しました。

4. 本番（3 月 9 日 8:00 EST）

1 時間前より Zoom を立ち上げ、日本と米国、そしてタンザニア（ゲストスピーカーの発信元）を繋ぎました。参加者への入室許可は 5 分前の 7:55（EST）に開始、8:00（EST）オンタイムにイベント配信が始まりました。その後も順調に進行し、3 つのブレイクアウトセッションでは連合会会員（14 名）も活発に発言し、その後の発表でも報告し、盛況のまま、予定通りイベントは終了しました。

5. CSW68 に向けて

実施形態が、現地のみとなる可能性があります。その場合は、支援方法も変わりますが、オンラインでの実施が継続して提供される場合は、世界中からの参加が見込める Zoom 利用は、有意義だと思います。来年はどんなテーマになるのか、楽しみにしています。

CSW67 インターン派遣事業への支援について

日本 BPW 連合会会計 佐藤道子

日本 BPW 連合会は、国連 CSW インターン派遣事業を開始した 2003 年度当初から、インターンの主体性を重んじてきました。事業の創設者である故・平松昌子前理事長に「派遣に伴う渡航費の調達も含めて、主体的に国連女性の地位委員会（CSW）に参加できる方を派遣したい」との強い思いがあったからです。そのため、BPW 連合会からのインターンへの補助は、海外旅行保険や、BPW International との交流への参加費など、最小限にとどめてきました。

一方で、昨今の国際的な物価高や為替変動リスクから、このような指針を疑問視する声も上がりましたが、日本 BPW 連合会の資金難から補助の増額は実現しませんでした。

【平松昌子メモリアル基金】

平松昌子前理事長の逝去（2021 年 11 月 30 日）に伴い、生前から親交があった、フィッシュファミリー財団創設者のフィッシュ・東光・厚子さんより、平松さんが続けてきたインターン派遣事業への資金援助の申出をいただきました。

その援助は、「平松昌子メモリアル基金」としてインターン派遣事業に年 100 万円の補助を今後 3 年間継続するという内容で、条件はインターン派遣事業が「アクションにつながり、最長で 1 年の短期的成果・インパクトを達成すること」というものでした。

そこで、当会は、CSW67 のインターン派遣において、初の CSW パラレルイベントの開催と、報告書の作成、帰国後に NWEF（国立女性教育会館）フォーラムに参加し CSW インターン派遣の成果を踏まえたイベントを実施することを、補助の条件としました。平松昌子メモリアル基金は、使途特定寄附として、両イベントにかかる費用のほか、CSW インターン派遣に伴う渡航費用・宿泊費の補助をすることにしました。

フィッシュ・東光・厚子さんの故・平松昌子前理事長への厚い信頼とご理解により、このような形で支援が実現したことを深く感謝するとともに、支援を享受したインターンが今後も大きな成果を上げることを願っています。



使途特定寄附については、認定 NPO 法人日本 BPW 連合会 事業報告書に掲載し東京都へ提出及び会報・ホームページ等に掲載。

インターンによる報告

1. インターン活動全体について

1-1. はじめに

この度は、第 67 回女性の地位委員会（CSW67）にインターンとして参加させていただき、誠にありがとうございました。新型コロナウイルス流行後、久しぶりの現地派遣ということで喜びもひとしおでした。また、インターンを中心としてパラレルイベントの企画から運営・実施に携わらせていただきました。まさに初めて尽くしの経験でしたが、BPW 連合会の皆様を始め、沢山の方々の温かなご支援の下、我々は限られた時間の中で精力的に活動することができました。一同心より感謝申し上げます。以下、我々が現地で感じたことや印象に残った出来事などを皆様に少しでもお伝えできればと思います。

我々は、本派遣を経てジェンダー問題への関心が一層強くなったと同時に、今後の人生を歩む上でのヒントや目標を学ぶことができました。今後も BPW での活動やそれぞれの道で目標に向かって邁進してまいりますので、どうぞご指導、ご支援の程よろしく願い申し上げます。

UN CSW67 インターナー一同

インターン名簿（参加時の所属）

奥崎鈴彩 おくざき れいあ（北九州市立大学外国語学部英米学科 4 年）

奥山千波 おくやま ちなみ（中央大学国際経営学部国際経営学科 4 年）

西岡真由美 にしおか まゆみ（臨床心理士・公認心理師/ウィメンズカウンセリング京都勤務）



国連本会議場にて 左から西岡、奥山、奥崎

1-2. CSW インターンシップ概要

報告：奥山

【CSW とは】

国連女性の地位委員会（Commission on the Status of Women: CSW）は国連経済社会理事会（ECOSOC）の機能委員会の一つで、政治、経済、社会、市民、教育分野における女性の地位向上に関して報告や提言を行う。ECOSOC はこれをもとに、国連総会に対して勧告する。加盟国に加えて、CSW の年次総会には国連機関とともに ECOSOC 協議資格のある NGO なども参加できる。年次総会では、その年の優先テーマを中心として女性の地位に関して討議が行われ、その結果が合意結論にまとめられる。

今回は、この NGO などの枠で参加が認められている日本 BPW 連合会のインターンとして、第 67 回 CSW 年次総会（2023 年 3 月 6 日～17 日）に参加した。第 67 回の優先テーマは「ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成のためのイノベーションと技術変化、及びデジタル時代の教育」で、レビューテーマは「農山漁村の女性・女兒のジェンダー平等とエンパワーメント達成のためのチャレンジと機会（CSW62、2018 年の合意結論）」であった。

【現地での活動】

同時並行して NGO-CSW フォーラムが開催され、世界中から女性・市民団体が多数参加し、イベントを行う。期間中、「サイドイベント」「パラレルイベント」と呼ばれる 2 種類のイベントが開催され、フォーラムの重要な構成要素とされる。

1 サイドイベント、パラレルイベント

サイドイベントは、各国の国連政府代表部または国連機関の主催によって基本的に国連本部ビル内で行われる。一方で、パラレルイベントは、NGO などの団体の主催によって基本的に周辺の会議室において行われる。今年度はオンライン・オフラインで 750 を超えるパラレルイベントが開催された。これらのイベントは、ホスト団体が全面的に企画し、CSW の優先テーマを何らかの形で取り上げるものである。

2 その他のイベント

上記の他に、NGO CSW フォーラムでは“Conversation Circles”，“Regional Caucuses”，“Civil Society Briefings”，“Networking”などのイベントが開催される。

- Conversation Circles：様々なテーマについて問題提起や意見交換をする場を提供する。参加者で活発な議論が行われる。
- Regional Caucuses：参加者が地域のアドボカシーとその地域の最も関連性の高い緊急課題について議論を行う。
- Civil Society Briefings：NGO CSW/NY と UN Women が共催し、市民社会、国連機関、加盟国が一堂に会し、CSW と成果文書の交渉プロセスにおける展開の現状を共有する。
- Networking：参加者同士のネットワーキングを可能にする様々なセッションを開催。

1-3. 特別活動

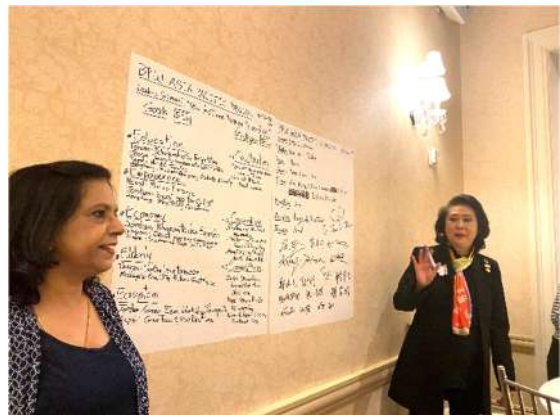
1-3-1. Leader's Summit

報告：奥崎

2 日間にわたって開催されたリーダーズサミットでは国際 BPW の様々な報告やディスカッションが行われた。BPW とはどんな組織なのか、何をしているのか、歴史やこれから挑戦しようとしていること等を代表役員がプレゼンをし、BPW の知識を深めることができた。ディスカッションでは Young BPW で集まって、Young だからできるアプローチは何かを話し合ったり、Asia Pacific の会員がグループで集まり 5Es（教育・エンパワーメント・経済・高齢化・環境）のゴールと 3Cs（クリエイティブ・協力・コネクション）の政策について各国が取り組んでいることを紹介し、話し合いをしたりして、まとめを全体へ発表した。



ヤングメンバーとの発表



Asia Pacific でのディスカッション

1-3-2. BPW Clare Fulture Dinner

報告：奥山

BPW Clare Fulture Dinner は、各国の代表として CSW に参加する BPW メンバーを称え合い、親睦を深めるために開催されているアットホームな夕食会である。今回は 3 月 5 日に現地開催され、派遣メンバー 5 名全員が参加した。ドレスコードは特にないが、スーツスタイルやドレスといった正装に近いスタイルを選ぶ方が多かった印象だ。会長をはじめ NY に集まった各国の BPW メンバーと交流し、ネットワークを広げる絶好の機会であった。特に、ヤング BPW が集まったテーブル席では、次世代を担うヤングメンバー各々が行っている活動や BPW に入会した経緯などをじっくりと話すことができ、良い刺激となった。



会場の様子



ヤングメンバーと一緒に

1-3-3. UNICEF 職員・大久保智夫氏 訪問

報告：奥山

ユニセフ（UNICEF：国際連合児童基金）NY 本部に勤務されている大久保氏にインタビューを行い、時間が足りないくらい素敵な時間を過ごさせていただいた。最初に大久保氏から経歴や国際機関での業務内容についてご説明があり、その後我々からの質問に回答いただく、という流れでインタビューが進んだ。世界を舞台に働くこと、大切にしている考え方、何を軸にしてキャリアを築くのか、ユニセフの課題と役割、など組織外部からでは知れない貴重なお話ばかりだった。



大久保氏のお話に興味津々



素敵なバックで記念撮影

1-3-4. 国際女性デーイベント

報告：西岡

3月8日（水）10:00～11:30、国際女性デー（International Women's Day）を祝うイベントが国連本部の大会議場であった。オンラインでも中継されたが、今年は運よく会場の入場券が手に入り（後ほど書くが、大変な混乱を極めた）、大会議場でイベントに臨むことができた。4階席まである大きな会場で、3階部分に座ることができた。

会場では、始まるやいなや、司会の呼びかけに応じて、参加者がお互いに“You are fabulous!”と声をかけあった。その言葉がけに勇気をもらい一気に元気になれた思いがした。

例年、その時の事務総長が最初に挨拶をするが、今年はグテーレス事務総長は、ウクライナ・キーウ訪問のため、代理の人がメッセージを読み上げた。事務総長のメッセージでは、ジェンダーに基づく差別は、あらゆる人、すなわち女性、女兒、男性、男児に害をもたらすことを明確に示し、今回のCSW67のテーマに関して、テクノロジーは、女性と女兒たちに、教育や機会への道を広げることができること、新たなテクノロジーの開発において、そこに携わる女性が少なければ、始めから差別が織り込まれるおそれがあることが述べられた。その後、複数のパネリストによるパネルディスカッションがあり、17歳の女性の力強い歌のステージで締めくくられた。（右の写真は、当日の会場の様子。）



チケットをめぐっての混乱についても記したい。一旦フォームに参加の仮登録をした後、当日入場するには紙の整理券をもらう必要があった。私たちは、配布の 2 時間前に行ったが誰もおらず、「13 時から」と言われたので、12 時過ぎから並び始めた。12 時 30 分には、配布予定の受付前にはたくさんの人が整然と列を作って並んでいたが、13 時過ぎに急きょ同じフロアの別の場所で配布する、と言われ、列が崩れてカオスとなった。最終的には建物の外と、最初の受付の 2 か所で配布されることになったが、国連でもこんな混乱が生じるのだな、と、意外であった。食糧配布のミッションなどと同じようなオーガナイズが必要とされそうだが、ミッションの遂行は現場の NGO が担っており、国連そのものが直接指揮するわけではないから（慣れていなくて）このような混乱が起きるのだろうか…？など、色んなことを考えさせられた。ある意味貴重な体験であった。

1-3-5. 国連開発計画（UNDP）職員 川瀬氏・横井氏訪問

報告：西岡

UNDP 職員として勤務されている、川瀬友裕氏・横井裕子氏を UNDP のオフィスに訪問し、お二人から、UNDP に勤務されることになった経緯や現在の職務内容、仕事を進めていく中の哲学や葛藤についてお話を伺った。横井氏は、gender and crisis unit で働かれているとのことだった。私にとって印象的だったのは、お二人とも、様々な国でプロジェクトを進めるにあたり、「日本という先進国出身の自分は現地の人からどのように見られているのか」と常に考えておられることだった。仕事を進めていくうえで大切なことは、西洋文明的に「よい」とされているものが、本当に現地の人にとっていいのか、という疑問を常に持つことと、植民地主義の歴史の中から生まれた分断や争いもあり、現実には様々なファクターが複雑に絡み合っているものである。白黒ははっきりさせる人間観からは脱して、複雑性を複雑なまま理解するマインド、と話され、深く考えさせられた。プロジェクトを進めるにあたって、例えば女性の就業率を上げたいと思っても、それをそのまま行えば伝統的な考えを持つ層からの反発があるので、（男性も含む）若年層の就労支援と銘打って、そこに女性の就業支援も含ませる、などの抱き合わせを行い、かつ現地の人々に受け入れやすい形での進め方をされていることも印象的であった。



1-3-6. 住友化学アメリカ訪問

報告：奥崎

住友ケミカルアメリカを訪問し、スコット社長、神田氏、立山氏へのインタビューに加え、会社概要説明やオフィス見学も案内していただいた。インタビューではスコット社長のトップ目線のお話や一人の父親として働きながら子育てをする神田氏にアドバイスされ

ているお話、NY での生活や子育てについてお伺いした。印象に残ったのはフローズンミドルと呼ばれる中間管理職が女性活躍を妨げているということである。一方でほかの企業のトップ層や若い世代は子育てとの両立や女性が活躍することへの理解度が高い。そのため、フローズンミドルを変えなければならないがそれが難しいと仰っていた。



スコット社長、神田氏、立山氏との集合写真

I-3-7. NGO モーニングブリーフィング

報告：奥崎

3月10日と16日の朝8時半から45分間で行われ、各NGOの代表者がパネリストとして登壇し、ゼロドラフトに関する意見や決意合意に当たってどこまで意見を主張すべきかなどが話し合われた。残りの数分で質疑応答が行われたが、45分間という短い時間であったためかなり駆け足で行われており、正直時間が足りないと感じた。10日の日には実際に国連本部に行って参加したのだが、UNTVでの配信もあるせいか整理券も取れ、スムーズに入室することができた。また、満席ではなかったためオンラインで視聴している人が多いように思えた。しかし、質疑応答に関しては現地のみだったため、発言したい人は現地で参加することをお勧めする。



モーニングブリーフィング後の会場

I-3-8. 国連日本政府代表部 NGO ブリーフィング

報告：西岡

3月8日（水）と3月15日（水）それぞれ18:30～19:30、国連日本政府代表部から日本のNGOに対して、CSW67における合意結論の採択に向けての議論の現状やスケジュール、日本政府としての見解について、説明がなされた。私は8日のブリーフィングに参加したが、その時点では、様々な国からの意見を統合したゼロドラフトができてきている、ということと、9日以降にインフォーマルな議論が始まること、2週目から一般討論や合意結論採択に向けたワーキンググループが動き出すという説明をいただいた。今回のCSWに関連した日本の動きとして、日本政府が今年4月に女性のデジタル人材育成プランを策定し、その良い例として、長野県塩尻市の例（女性がテレワークをしながらデジタルスキルを身につけて地域の活性化をはかっているなど）が紹介された。各国間の議論はこれからということもあり、ブリーフィングの場では、日本のジェンダー平等に関する施策や考え方一般について質問がなされた印象であった。

1-3-9. 外務省総合外交政策局 女性参画推進室長 古本氏との交流

報告：西岡

3月9日（木）、外務省総合外交政策局女性参画推進室長である古本建彦氏と、“Toscana 49”でお話を伺う機会をいただいた。古本氏からは、現在のCSW内での動きや、国連の場で実際にどのように議論が進んでいるのか、国連内での一番のホットなトピックはここ数年気候変動とジェンダーであることなど、このような機会がなければとても聞けないような貴重なお話の数々をしていただいた。また、国際的な機関で働いている人は「常に2つ先のポストを見据えて今何をすべきか考えている」と話されたことも印象的であった。



1-3-10. BPW メンバーの方々・日本からの訪問団の皆様との交流

報告：奥崎

滞在中は BPW の中山さんと布柴さん、JAWW の皆さまをはじめとした日本の NGO の方々とホテルで立食パーティーをしたり、フェアウェルディナーに行ったりした。同年代のインターンも集まって話すことができたため、それぞれジェンダーに興味を持ったきっかけやインターンに応募した理由、将来の話などフランクに意見交換をすることができた。皆さま強い意志や考えをお持ちで、どのお話も興味深く勉強になることばかりだった。



1-4. 現地でのスケジュール

作成：奥崎

月	火	水	木	金	土	日
		2023/3/1 日	2 日	3 日	4 日	5 日
				6:00~7:00 W7コミュニケ 事前公開コンサ ルテーション 9:00~17:30 BPW Leaders ' Summit	9:00~17:30 BPW Leaders ' Summit	8:00~10:00 パラレルイベントリ ハーサル 10:00~13:00 Consultation Day 18:30~ Clare Fulcher Dinner
6 日	7 日	8 日	9 日	10 日	11 日	12 日
International Women's Day Pass 取得 15:00~16:30 大久保氏訪問 (Unicef)	19:00~21:00 日本政府・ NGO 共催サイ ドイベント	10:00~11:30 International Women's Day 15:00~16:00 川瀬氏・横井氏訪 問(UNDP) 18:30~19:30 日本政府代表部 NGO プリーフィ ング	8:00~9:00 パラレルイベン ト開催 18:30~ 古本室長と交 流	8:30~9:15 NGO モーニング ブリーフィング		
13 日	14 日	15 日				
		18:30~19:30 日本政府代表部 NGO プリーフィ ング				

1-5. それぞれのインターンが参加したサイドイベント・パラレルイベント

※ 会場：UNHQ は国連本部、CCUN は Church Center for the UN の略

※ 緑のボックスはサイドイベント

<奥崎鈴彩>

日付	タイトル	イベントテーマ/主催者/会場
3/6 (Mon)	Opening Session	/UNHQ Conference Room 4
3/7 (Tue)	Engagement of religious and cultural leaders, challenges and opportunities in promoting gender equality and empowerment of rural women	地方の宗教・文化的リーダーを巻き込んだアプローチ Youth Alive LTD /CCUN 8 th Floor
	Education Can Provide the Preconditions for Inclusive and Active Citizenship	カナダのデジタル教育 The Canadian Federation For Citizenship /CCUN 8 th Floor
	Young Change Makers-Future Moral Leaders with the Global Goals Spirit	ウクライナの現状と女性たち The Educational Ukrainian Hub in Bucharest /CCUN 10 th Floor

日付	タイトル	イベントテーマ/主催者/会場
	Transforming Innovation and Technology to Empower Women and Girls: Is Establishing New Faculties of Engineering at Women's Universities the Panacea for Gender Equality?	ITと女性のエンパワーメント International Women's Year Liaison Group, Japan Women's Watch (JAWW), The National Women's Committee of the United Nations NGOs, Permanent Mission of Japan to the United Nations /Virtual
3/8 (Wed)	International Women's Day	/UNHQ
3/9 (Thu)	How to make actions for gender mainstreaming in entrepreneurship	BPW Japan /Virtual
	Interlinkages between Climate Change, Technology and Human Trafficking for achieving Gender Equality and Youth Leadership	ナイジェリア/気候変動/テクノロジー/人身売買/解決策とプラットフォームの実現 Women's consortium of Nigeria (wocon) /CCUN 10 th Floor
3/10 (Fri)	Civil Society Briefing	NGO CSW/NY /UNHQ Conference Room 4
	From Visible to Invisible: Asian CSOs Confronting Digital GBV	アジアパシフィックの女兒・女性保護団体 Asian Network of Women's Shelters (ANWS) The Garden of Hope Foundation (GOH) /CCUN 10 th Floor
	Unseen Housewives: The Shocking "Trailer" That Aims to Cancel America's Child Marriage Show	アメリカの児童婚 Unchained At Last /Virtual
3/14 (Tue)	Youth Morning Briefing	NGO CSW/NY /Virtual
	Innovation and Digitization: Advancing the Women, Peace and Security Agenda	ITの課題と機会/ベルギー UNDP /Virtual
3/15 (Wed)	The Role of Innovation and Technology in Empowering and Advancing Rights and Justice for Young People – In Particular Girls of African Descent	ITにアクセスするための課題 United Nations Population Fund (UNFPA) /Virtual

日付	タイトル	イベントテーマ/主催者/会場
	Designing an Enabling Environment for Women to Thrive During Changes	女性活躍のための環境設計 Young BPW International /Virtual
3/16 (Thu)	Civil Society Briefing	NGO CSW/NY /Virtual
	Bridging The Gender Gap in The Digital Economy: Leveraging Technology and Innovation To Advance Women' s Economic Empowerment in Asia Pacific And Africa	アジアパシフィック/デジタルエコノミー UN Women /Virtual

<奥山千波>

日付	タイトル	イベントテーマ/主催者/会場
3/6 (Mon)	Unlocking the potential of gender-responsive policies to accelerate gender equality and women' s empowerment in Agri-food Systems	農業食糧政策 African Women in Agricultural Research and Development (AWARD) /CCUN
	Going Beyond Advocacy for Traditional leaders to change their attitudes and social norms. Amplifying indigenous practices to respond to child marriage and promoting education	若年結婚と教育 Rozaria Memorial Trust /CCUN
3/7 (Tue)	Engagement of religious and cultural leaders, challenges and opportunities in promoting gender equality and empowerment of rural women	宗教・文化的リーダーを巻き込む/ 農村部の女性 Youth Alive LTD /CCUN
	Protecting Women Human Rights Defenders for Sustainable Peace	女性の人権と平和 the Journalists and Writers Foundation /CCUN
	Protection of human rights of sex workers on digital platforms	セックスワーカー/人権 Sex Worker Inclusive Feminist Alliance (SWIFA) /CCUN
	Transforming Innovation and Technology to Empower Women and Girls: Is Establishing New	ITと教育 International Women' s Year Liaison Group

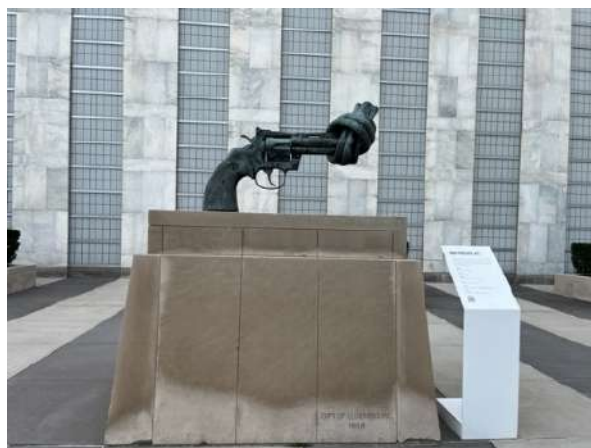
日付	タイトル	イベントテーマ/主催者/会場
	Faculties of Engineering at Women's Universities the Panacea for Gender Equality?	/ Virtual
3/8 (Wed)	Using Technology to Advance the Sexual and Reproductive Rights of Women with Disability	テクノロジーと障害を持つ女性の性と生殖に関する権利 Women With Disabilities Australia (WWDA) /CCUN
	Women Role Models Empowering Girls in STEM Careers Worldwide	ロールモデル/STEM 分野におけるキャリア形成 Career Girls /Virtual
3/9 (Thu)	Interlinkages between Climate Change, Technology and Human Trafficking for achieving Gender Equality and Youth Leadership	気候変動/人身売買/若者のリーダーシップ Women's Consortium of Nigeria (WOCON) /CCUN
3/10 (Fri)	Sexual Violence, unwanted Pregnancies and unsafe Abortion: Perspective from a National survey in Nigeria	ナイジェリアにおける女性への暴力 Ipas /CCUN
	Transformative Women's leadership on land rights for achieving gender equality and empowerment of women	土地の権利に関する変革的な女性のリーダーシップ Oxfam International /CCUN

<西岡 真由美>

日付	タイトル	イベントテーマ/主催者/会場
3/6 (Mon)	Equality in education for eliminating violence against women and girls (VAWG)	女性・女児への暴力をなくす EuroMed Feminist Initiative, and Women's UN Report Network (WUNRN) /Virtual
	Innovative Model Empowers Young Israeli/Palestinian Women to Advance Peacemaking	イスラエル/パレスチナ女性・平和構築 Tomorrow's Women /CCUN
3/7 (Tue)	Engagement of religious and cultural leaders, challenges and opportunities in promoting gender equality and empowerment of rural women	宗教・文化的リーダーを巻き込む Youth Alive LTD /CCUN

日付	タイトル	イベントテーマ/主催者/会場
	The social and economic situation of Palestinian women under Israeli occupation	イスラエル占領下での女性の状況 Palestine and ESCWA /UNHQ
	Feminist conundrums of working on men and masculinities: global perspectives	男性と男性性の問題に取り組む International Center for Research on Women, Nirantar Trust, UNESCO, AJWS /CCUN
	Protecting Women Human Rights Defenders for Sustainable Peace	女性の人権・平和 The Journalists and Writers Foundation /CCUN
	"Assistance to survivors: six months of the implementation plan for the framework on cooperation between the government of Ukraine and the UN on prevention and response to conflict-related sexual violence and the role of women's civil society organization	ウクライナ・性暴力と女性の役割 Ukraine /UNHQ
	Transforming Innovation and Technology to Empower Women and Girls Confirmation	ITと教育 International Women's Year Liaison Group, Japan Women's Watch (JAWW), The National Women's Committee of the United Nations NGOs, Permanent Mission of Japan to the United Nations /Virtual
3/8 (Wed)	Using Technology to Advance the Sexual and Reproductive Rights of Women with Disability	テクノロジーと障害を持つ女性の性と生殖の権利 Women With Disabilities Australia (WWDA), Women Enabled International /Salvation Army
3/9 (Thu)	How to make actions for gender mainstreaming in entrepreneurship	ジェンダー主流化・起業 BPW Japan /Virtual
3/10 (Fri)	Men & Boys: Revisiting Sustainable Development Goal 5	男性と少年・ジェンダー平等 MA students and teachers at Teachers College, Columbia University /Virtual

日付	タイトル	イベントテーマ/主催者/会場
	Digitalization in Gender Based Violence Case Management-Covid-19 Women' s experiences	GBV・コロナ禍・デジタル化 Oxfam in Uganda /Salvation Army
	Supporting Calls for Freedom and Equality in Afghanistan and Iran	アフガニスタンとイランの女性 Women' s Learning Partnership /CCUN



国連本部内にある「発射不能の銃 Knotted Gun」。非暴力の象徴となっている。



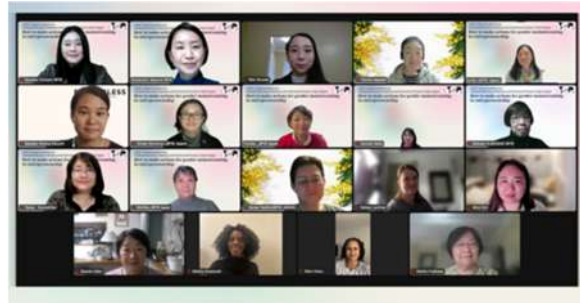
国連本部内にある地球儀のオブジェの前にて。



国連本部内にある“Japanese Peace Bell”。1954年に日本が寄贈した釣鐘。



イベントチラシ（奥崎作成）



参加者との写真撮影

＜プレゼンテーション概要＞

ジェンダー主流化について（奥山より）

約 15 分間のプレゼンテーションでは、ジェンダー主流化の概要や導入可能な分野、ジェンダー主流化における 4 段階プロセスの解説を行った。企画を通して、参加者には「ジェンダー主流化」という用語が何を指しているのか、男女平等社会のためにどのように活かしていけるのかを考える契機となることを目指した。特に、重要なポイントとして、ジェンダー主流化はジェンダー平等自体を示すのではなく、ジェンダー平等社会を実現するための戦略として国際的に受け入れられている、ということを強調した。



プレゼンテーションで使用了スライド

ジェンダー主流化を起業において実践するには、まず社会・ジェンダー分析を通じてジェンダー課題を特定することであり、様々な調査方法を通じて正確な情報が必要である。今回は、実際に起業を経験した起業家に実態や課題をヒアリングすることを目的として、社会起業家の菊池氏をお迎えした。

起業と活動内容について（菊池氏より）

社会起業家の菊池氏は、タンザニアの若年妊娠したシングルマザーのために起業を決心し、復学機会・雇用機会の創出を通して彼女たちの再スタートを応援するビジネスを行っている。プレゼンテーションでは、起業に至る経緯や生理用ナプキンの商品としたビジネスプラン、事業を通して発生するソーシャルインパクトなどについて説明した。質疑応答では、今後の事業展望や起業時の両政府による支援の有無などに回答した。

菊池モアナ氏の活動はこちらから：

<https://www.borderless-japan.com/social-business/luna-sanitarypads/>



グループディスカッション

ブレイクアウトセッションでは、自国の女性起業家が直面する課題や起業に対する支援等を中心に参加者で意見交換が行われ、最終的には起業におけるジェンダー主流化を促進するためキーワードがまとめられた。

以下、話し合った項目を記載する。

1. Is female starting a business common in your country?
2. What do you think is difficult for women to start a business?
3. What kind of support would be necessary for women to start a business?

ただ、質問事項にとらわれず自由に議論してほしいというインターンの想いから、意見共有の時間では質問ごとの内容は聞かず、議論の感想や持った印象を共有するよう促した。

2-2. パラレルイベントの舞台裏－企画のプロセス

報告：西岡

この節では、パラレルイベントを行うことになり、実施にいたるまでどのようなプロセスがあったのか、どのようなことに悩み、どのようなことを行ったのかを書きたいと思う。

● パラレルイベントのテーマの決定

2022年11月2日、CSW67に関わるBPWメンバーの方々とインターンの顔合わせのミーティングをZoom上で行った。そこで、インターンの奥山さんが2022年度のNWEFフォーラムで発表される「ジェンダー主流化」をテーマとすること、80人～100人規模の会場で行うことが共有された。12月2日までに、イベントのタイトルと概要を提出する必要があり、BPWメンバーの方々の意見を伺いつつ、インターンで考えた。ここで議論になったこととしては、タイトルにwomenという言葉を入れるかどうかということだった。ジェンダー主流化が対象としているのは、女性だけではないので、womenを入れることに疑問もあったが、今も女性は男性と比較して不利なポジションにあるため、やはり入れよう、ということになった。

● イベントの開催方法、Whovaアプリについて

当初、対面での開催を念頭に置いて準備を進めていたが、最終的にオンラインでの開催となった。個人的には、対面での開催よりも不確定要素が減り有難いと思った。対面だと、必ずその場に登壇者がいる必要があり、万が一コロナに感染したり怪我したりすると成り立たなくなる可能性もあるし、サポートいただける人数も限られる。オンラインだと、機器やネット回線の安定性がネックになり、対面で得られる一体感のようなものは少なくなるだろうが、結果的には日本からの参加者も多く、対面開催以上に参加者が多かったかもしれないと思う。また、CSW67において、パラレルイベントはWhovaというアプリが使われた。そこにイベントの内容や登壇者の情報を載せることができた。Pollという機能もあり、そこに質問を投げかければ、アンケートのように答えてもらえた。私たちも、その機能を使い、「ジェンダー主流化を知っていますか?」「ジェンダー主流化を説明できますか?」という質問を投げかけ、結果をイベント内で公表した。

● イベントで目的としたかったこととその工夫

私たちがこのイベントで目的としたかったのは、ジェンダー主流化の概念が理解され、それが様々な分野で実践されることであった。ただ、「ジェンダー主流化」というのは抽象的な概念であるため、説明するために具体的な事象が必要だと考え、起業を一例として取り上げることとした。また、ジェンダー主流化を実際に実行するのは、自治体や政府、企業など、何かしらの調査・行政的役割に就いている人々であるため、そうではない人々には場合によっては身近な問題だと感じてもらえない可能性もあった。そのため、調査される側にいる一人一人のひととして、具体例である起業において、どのような現状や不都合や困難があると思うか、どんな支援があるとよいと思うかについてグループディスカッションで考えて、言葉にし、お互いに刺激を授受する場にしようと考えた。また、女性の起業の例として菊池モアナさんに登壇いただいたが、起業という側面のみならず、タンザニアの女性の社会的立場や女性の貧困、性暴力、性教育など、複層的な問題とそれに対する大変貴重な取り組みを紹介していただき、私個人としても大変勉強になった。準備段階で、菊池さんのお話は強いインパクトをもたらすことが考えられたため、イベントに対する参加者の印象がばらばらなものになることも懸念された。そのため、司会の方から、菊池さんのお話の位置づけについて説明し、最後に Jamboard で「起業においてジェンダー主流化を促進するには、何をしたらいいと思いますか？」という質問を投げかけて参加者皆に書き込んでもらった。

とはいえ、主催側の目的やイベントの方向性はあったとしても、参加者がイベントで何を感じるか、何を得たかについては参加者一人一人で異なると思うし、それでいいと考えていた。私自身も、誰かの話を聞いて、全体の流れではなく、その中の 1 つのトピックや、一つの言葉に強く興味を引きつけられることがある。私たちとして、どのような意味においても、参加者にとって得るものがある、意義深い時間となっていたら良いな、と思う。

2-3. 当日の様子

報告：奥崎

〔実際に運営してみて〕

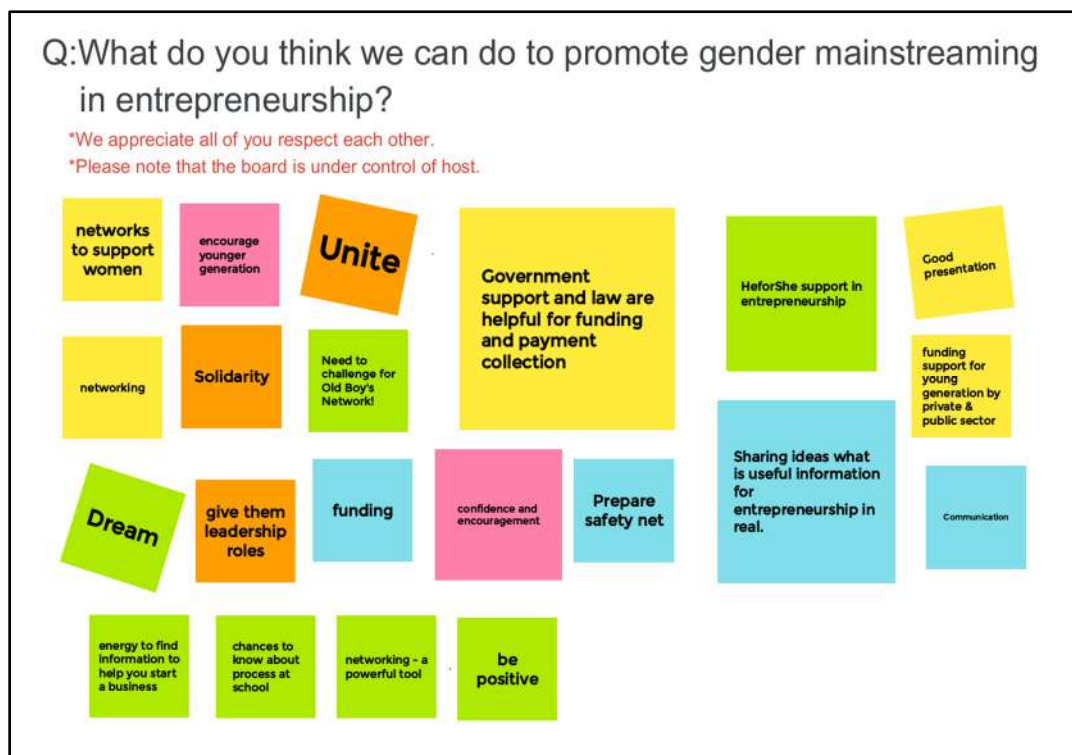
当日は計 42 名の方にご参加いただき、菊池モアナさんのプレゼンもディスカッションも無事終えることができた。運営の裏側ではインターネット環境の問題で私（奥崎）の Zoom が何度も落ちてしまうというハプニングがあり、共有するサイトのリンクの送信が遅れてしまうこともあったが、モアナさんのお話に合わせて適宜対応することができた。



[グループディスカッション/Jamboard]

グループディスカッションへの参加は任意という形にしていたため、ブレイクアウトルームに 1 人しかいない状況ができてしまい、人数調整の面で一苦勞あった。それが原因でグループディスカッションへの参加を断念してしまう方もいたため、そこは反省点である。

Jamboard の運営は画面が荒らされることなく、整頓された状態でそれぞれの意見を拝見することができた。



当日の Jamboard

[参加者アンケート結果]

参加者は 20 代から 70 代まで幅広い年齢の方にご参加いただいた。日本の参加者が多かったが、UK や韓国からの参加者もあり、グループディスカッションで異なる国に住む方と話せたことが良かったというコメントもあった。

菊池モアナさんのお話も好評で、もっとお話を聞きたかったという意見が多かった。また、起業におけるジェンダーメインストリーミングという切り口が新鮮で良かったという意見も頂いた。

3. インターン一人一人からの報告

3-1. インターン個人報告

奥崎 鈴彩（北九州市立大学外国語学部英米学科4年）

【はじめに】

この度は CSW67 にインターンとして派遣していただいたことに心から感謝申し上げます。非常に充実した学び多き日々を送ることができ、今後の活動に対する活力となりました。また、パラレルイベントに向けた事前打ち合わせや滞在中・療養中のサポートも BPW の一員として心強く感じ、安心して滞在することができました。ありがとうございました。

【インターンに応募した動機と背景】

私が CSW67 インターンに応募した動機は大きく二つある。「国際問題やジェンダーの問題に対する知見を広げるため」と「国際的な社会問題を解決するために働くという感覚を身につけるため」である。また、この派遣を通して多くの人と繋がり、今後の活動のためにもコネクションを持つことを目標としていた。



BPW と CSW67 インターン派遣事業を知ったきっかけは北九州市立大学学長選考型研究費「国際的な取組みへのコミットメントを通じた本学におけるジェンダー平等（SDG5）の推進」のプロジェクトに参加したことがきっかけである。様々な方に SDG5 に関連したインタビューしたり一緒にイベントを実施したりする中で、名取はにわ理事長とご縁があり、名取理事長のお話の中で BPW と CSW インターン派遣を知った。国連に行くなんて夢にも思っていなかったが、このお話を聞いたとき卒業前のこのチャンスを逃すわけにはいかないと思い、応募した。大学での講義や SDG5 プロジェクトで得たことをさらに広げ活躍したいと思ったのである。

そもそも私がなぜジェンダー平等や女性の活躍について興味を持ったのか。それは大学のある講義がきっかけである。アンコンシャスバイアスを扱う講義で、こんなにも不平等があふれているのかと、自分が当たり前と思っていたことでも無意識に差別されていたこと・差別していたことに気づき、ハッとさせられた。それから、この仕事はなぜ女性ばかりなのか？なぜ男性にしか任されないのか？些細なことでも疑問に思うようになった。また、自分自身が母子家庭で育ったことや周りに働く母親が多くいたことから、自分も将来はキャリアを諦めずに仕事子育てを両立できるようになりたいと無意識に思っており、そのためにも社会を変えるために動かなければならないと思うようになった。そして、別の講義では児童婚や女性器切除の問題など、世界の悲惨な現状を知り、まだまだ知らないだけで沢山問題は転がっているのだと学んだ。そんな中、大学で SDG5 プロジェクトに出会い、偽善者と周りから言われようが動かなければ何も変わらないと思い参加を決意した。

ゼミではビジネスを専攻しており、特に異文化間マネジメントについて学んでいた。その中でも性別によるデータの違いや国によって女性であることを重要視する文化とそうでない文化を学んでいたため、SDG5 プロジェクトで得たことも活かしつつ、卒業論文ではアイスランドと日本を比較し、女性のリーダーシップについて執筆した。

これらの集大成として、さらなる高みを目指すためにもこの CSW67 インターンに応募した。

【印象に残ったこと】

—CSW67

国連本部に初めて入った時、同じゴールを目標として活動する人たちがこんなにいるのかと感動した。日本では注目しなければジェンダー平等に向けて活動する人やロールモデルとなる女性とは出会うことがほとんどなかった。これでは日本をはじめ世界の意識を変えるにはまだまだ時間がかかると思っていた。しかし、国連本部に集まる人々や NY ですれ違う国連のグランドパスを掛けた人々の多さから、これだけの人が動き・声を上げるのであれば、世界の意識も変わるだろうとこの活動をすることに對して自信につながった。一方で、この課題に対して問題意識を持たなければ見ることができない光景であるため、イベントや講座などの問題意識を持つきっかけを提供することが大事だと感じた。

文化面で非常に面白かった経験としては、国際女性デーのパスを取得する際に発生した混乱の様子である。もともとできていた列とは異なる場所で受付になると言われ、そこにいた大勢が一気に移動。列という列もなく押しくらまじゅうの状態になっていた。そんな中、警備員に対して何か言っている人、係ではないがその場を統制しようとする人など様々な人の行動や文化の違いを感じ取れる現場であった。結局別の 2 か所で受付となり、無事パスも獲得することができたが、日本の情報伝達の効率のよさに気づくことができた。



—BPW 関連

リーダーズサミットやクレアファルチャーディナーを通して、BPW メンバーの力強い意志と行動力に感銘を受けた。ヤングメンバーだけでディスカッションを行う際、意見が飛び交い話についていくのがやっとの状態であった。また、話し合いのテンポが速く、自分の意見を言うタイミングを逃すことばかりであった。このスピード感は日本ではなかなか味わうことのできない経験であり、自分の未熟さを痛感する機会でもあった。行動力に関してはヤングメンバーで毎日のように食事に行ったり観光したりしているようだった。なかなかタイミングが合わず、一緒に行くことはできなかったがフレンドリーな雰囲気のおかげで、国連本部ですれ違った際に話しかけたり、話しかけられたり充実した日々を送ることができた。

国際 BPW の皆さまはとてもオープンでウェルカムな雰囲気の中で想像していた緊張感とは異なり戸惑った。中でも面白い経験だったのはリーダーズサミットのランチタイムでスペイン語圏のメンバーに囲まれて食事をしたことだ。英語が使えないため、ジェスチャーや簡単な単語で会話をし、何となくでも伝わっているようだったので言語の壁を越えた気がした。



【CSW67 インターン派遣を通して感じたこと】

このインターン派遣を通して、知識だけでなくこの活動における勇気と自信を頂いた。また、スピード感のある多大なサポートもあり、BPW の一員として参加できたことを誇りに思う。今回は CSW だけでなく国連職員の方々へのインタビューや企業訪問などイベントが目白押しで充実した日々であった。こんなにも学ばせていただけるのかと驚きと恐縮さはあったが、この経験をもとに何か新たな行動に移すことができたと思う。これらを通して関わった方々、コネクションを持った方々も多いので引き続き情報交換をし、日本だけでなくグローバルな視野をもって多角的に考えることができるようになりたい。また、今後の課題として現在働いている観光業界※とジェンダー平等の問題についても知見を深め、還元できればと思う。



このNYでの滞在で学んだことを活力に、今後も積極的に活動していきたい。

※ 2023 年 4 月より株式会社 GTEN リゾートに勤務

【次のインターンの方に伝えたいこと】

一 事前準備

事前準備として関連する情報を調べておくことと参加したイベントをもとに大まかなスケジュールを立てておいたほうがより充実した日々を送れる。SDG5 や国連の情報に特化するのではなく、W7 などではどんなことが注目されているのか動向を調べておくことにより深い学びが得られたらと思う。

スケジュールに関しては興味のあるイベントをピックアップしていたが、Whova を中心に見てしまっていたため、国連のイベントやサイドイベントの情報を見つけたのが直前になってしまい、スケジュールを立て直すことになってしまった。そのため、Whova だけでなく CSW のサイトをくまなく確認してスケジュールを立てることをお勧めする。また、見たいイベントをリストアップし、トピックに偏りが出ないようにするのも良いと思う。

一 体調管理

連日の疲れや環境変化から体調を崩してしまい、後半に楽しみにしていたサイドイベントにもほとんど参加できず、滞在中も皆様に多大なるご迷惑をおかけしてしまった。乾燥していることを事前にお知らせいただいていたため、のど飴や濡れたフィルターが入るマ

スクなどを持参していた。また、酔い止め、解熱剤、胃薬などの薬や体温計を持参していたことで早期対応ができたと思う。毎日の検温や定期的な抗原検査の甲斐もあり、他の方々に移すことなく出国できた。持ち物として、薬と体温計、マスク、スプレータイプの消毒液、ビニール袋、使い捨ての手袋を持参しておくといい。薬に関しては飲み慣れた薬をお勧めする。理由としては処方された解熱剤が強く、服用後 35 度まで下がったことがあり、少し恐怖を感じたからである。

定期的に体温を測り体調管理をし、その都度スケジュールを変更したり、参加イベントを詰め込みすぎないようにしたりすることをお勧めする。

—最後に

現地での経験はどれも刺激的で貴重な経験ばかりです。最初は緊張があったり、臆病になっていたりしましたが、楽しみながら吸収することでより良い学びを得ることができました。また、人見知りの性格でもありましたが、会場で一緒になった方と積極的に話したり、主催者の方と少し話す機会もあったり成長することができました。

全力でこの機会を楽しみ、悔いが残らないように過ごしてください。

3-2. インターン個人報告

奥山 千波（中央大学国際経営学部国際経営学科4年）

【参加目的・背景】

第 67 回国連女性の地位委員会（CSW67）のインターンとして、3 月 2 日～12 日の 10 日間、現地で活動を行った。昨年度の第 66 回はコロナ禍かつヨーロッパに留学中であったためオンラインでの参加だったが、今回は念願叶って現地に赴くことができ、大変嬉しかった。国連本部やイベント会場では、世界中から集まる参加者の熱気や臨場感に終始圧倒されていた。

昨年同様、BPW メンバーの方々及び世界の女性団体の方々と交流したりお話を聞いたりすることで、日本にとどまらない世界基準の活動や動向に加え、国際的な感覚を養うことを目的として活動した。留学時は社会福祉学部ジェンダー・セクシュアリティ学科に所属し、様々な授業を取る中でジェンダーに関する理解を深めていった。その一つとして、ジェンダー主流化を学び、縁あってそれをテーマに平行イベントを開催する運びとなった。現在はジェンダー主流化を絡めながら大学の卒業論文を執筆している。



【主な1週間のスケジュール】

期間中は主に平行イベントに参加し、他にもサイドイベントや国連本部で開催されたイベントなどに出席した。BPW としては、2 日間の Leader' s Summit や Clare Fulcher

Dinner に参加した。更に、国連機関や日本企業のアメリカ支部に訪問する機会をいただいた。隙間時間には BPW のヤングメンバーとカフェで話したり、NY 観光を楽しんだりした。今後インターンとして派遣される方の参考になれば幸いである。

	2023/3/3(金)	2023/3/4(土)	2023/3/5(日)	2023/3/6(月)	2023/3/7(火)	2023/3/8(水)	2023/3/9(木)	2023/3/10(金)
6am								
7								
8			8:00-10:00 パラレルイベント リハーサル	8:30-10:00 パラレルイベント	8:30-10:00 パラレルイベント		8:00(7:00)-9:30 パラレルイベント	8:30-9:15 NGOモーニング ブリーフィング
9								
10						10:00-11:30 the UN Observance of International Women's		10:30-12:00 パラレルイベント
11				10:00-13:00 opening of the session				
12			10:00-13:30 Consultation day			12:30-14:00 パラレルイベント	12:30-14:00 パラレルイベント	
13	9:00-17:30 Leaders' Summit	9:00-17:00 Leaders' Summit		the UN Observance チケット取得				
14			グランドバス取得		14:30-16:00 パラレルイベント		15:00- 住友化学アメリカ 企業訪問	
15				15:00-17:00 UNICEF訪問		15:00-16:15 UNDP訪問		
16					16:30-18:00 パラレルイベント			16:30-18:00 パラレルイベント
17								
18						18:30-19:30 国連日本政府代表部 NGOブリーフィング	18:30- 外務省人権人権課 女性活躍推進室 古本室長 会食	
19		BPWメンバー 顔合わせ & 夕食	18:30- BPW Clare fulcher dinner	派遣 メンバー交流会	19:00-21:00 サイドイベント			18:30- フェアウェルパーティ
20								
21						パラレルイベント準備		
22								

【パラレルイベント開催に関する背景・感想】

私を含めたインターン 3 名が中心となってパラレルイベントを開催したことは、昨年と大きく異なる初の試みであり、個人的には開催するまで常に緊張感があった。昨年 12 月の NWEF フォーラムで扱ったジェンダー主流化を引き続き取り上げ、「How to make actions for gender mainstreaming in entrepreneurship (起業におけるジェンダー主流化への取り組み)」と表して、起業に焦点を当てた形でジェンダー主流化を考えた。最終的には、BPW メンバーの方々の徹底的なサポートもあり無事に終えることができ、大変達成感のある経験となった。

なぜ、ジェンダー主流化に興味を持ったかという、留学時に「Mainstreaming for Diversity (多様性への主流化)」という授業を履修したことが契機である。その中で Gender Mainstreaming (ジェンダー主流化) というトピックがあり、そこで初めてジェンダー主流化という用語や仕組みを知った。ジェンダー主流化がジェンダー平等達成に重要な戦略であると感じ、非常に印象に残ったトピックであった。

実際に、ジェンダー主流化という用語はジェンダー問題に関心を持っている人でもあまり馴染みがないのではないかと感じている。それはパラレルイベントの参加者を通してよりはっきり意識するようになった。また、その複雑さや分野が多岐にわたることもより理解しづらくしている原因だと思う。ジェンダー主流化が進むことで、より平等な社会が実現され、社会全体がより多様で包括的なものになることを期待している。

【印象に残ったパラレルイベント】

I Protecting Women Human Rights Defenders for Sustainable Peace

イベント内容

このイベントは the Journalists and Writers Foundation (WHRD) が主催し、人権擁護団体と共に以下のような議論が行われた。

- 持続可能な平和の創造における女性人権擁護者の重要性

- 家父長制社会で WHRDs が遭遇するジェンダー特有の課題
- 国家主導の法的嫌がらせや恣意的な措置による WHRDs の排除
- 各国の事例分析とベストプラクティス

感想



イベントを通して、家父長的、反ジェンダー的な国や地域におけるジャーナリストや人権擁護者に対する人権侵害の現状に衝撃を受けた。ディスカッションの中で、アフガニスタンの前市長である登壇者が、「最前線に立ち続け、人権に関する社会運動をリードする一方で、命を脅かす侵害の対象となることは避けられない」と述べていたのが印象的であった。ただ、その問題に対して地域

や世界レベルで様々な市民社会組織と協力し、政策提案に繋げる取り組みをしていることを知り、問題解決の糸口を提示されたような感覚になった。

2 Women Role Models Empowering Girls in STEM Careers Worldwide

イベント内容

このイベントでは、気候変動、AI、機械学習などの重要な STEM 分野で Career Girls が提供している革新的なプログラムの説明が行われた。プログラムの目的は、女兒の将来の経済的機会の向上、デジタルリテラシーの育成、安全で教育的な環境の提供、STEM 分野におけるジェンダーギャップの解消、優れた女性のロールモデルから話を聞く機会を提供することである。

Career Girls のバーチャルプログラミングは、国連の持続可能な開発目標のうち、「4：質の高い教育をみんなに、5：ジェンダー平等を実現しよう、8：働きがいも経済成長も、10：人や国の不平等をなくそう」の4つに合致している。

感想

Career Girls が提供しているプログラムは、デジタルの発達をうまく取り入れつつ、女子学生が抱える課題と需要に即したプラットフォームだと思った。私も学生としてキャリアを考える際に、自分が思い描くキャリアを積んでいる方々の話を聞いてみたいと思うことが何度もある。自分のキャリア構築のために何をしていかなければならないのか、どのような道が存在するかなど、実際に経験されたロールモデルを知ることによって解像度を上げることができるからだ。特に、STEM 分野で前例の少ない場合は困っている学生は多いと思う。プラットフォームには 800 を超える女性のロールモデルが登録されていることに加えてグ

ローバルネットワークであるため、自国以外のロールモデルを探せるという点でも非常に魅力的だと感じた。

3 途上国における STEM（科学、技術、工学、数学）分野

途上国支援に関心があるため、途上国における STEM 分野の促進やデジタル課題に焦点を当てたイベントにも参加した。そこで議論されていたのは以下の内容である。

途上国における女性の STEM 分野の促進には、

- 教育の改善：女性が STEM 分野に進むためには、高品質な教育が必要。教育機関は、女性の STEM 分野での進路を促進するために、STEM 教育の質を向上させることが重要である。
- キャリアの支援：女性が STEM 分野で成功するためには、適切なキャリア支援が必要。これには、メンターシップ、アドバイス、スキルの習得などが含まれる。
- 文化的な変化：途上国においては、女性が STEM 分野に進むことが主流ではない場合がある。女性が STEM 分野に進むことを奨励し、女性に STEM 分野でのキャリアを追求する自信を持たせるような、文化的な変化が必要。
- インフラの整備：STEM 分野には、適切なインフラが必要。途上国では、STEM 研究や実験のための適切な施設や機器が不足していることが課題として挙げられる。
- 政策の策定：政府や教育機関は、STEM 分野における女性の進路を促進するために、適切な政策を策定することが必要。これには、STEM 教育への投資、女性に対する奨学金や資金援助、女性の STEM 分野での就職促進などが含まれる。

【全体の感想】

女性・女兒のエンパワーメントに取り組んでいる世界中の政府機関や NPO/NGO 団体、活動家の姿に大変刺激を受けたのはもちろんのこと、国際規模の議論が進められていく様子を現地で体験することができたことは大変貴重な経験であった。期間としては約 1 週間という短さだったが、現地で知り得たことや経験したことは、私の今後の人生に大きな影響を与えると確信している。

人生をかけてジェンダー問題の解決に尽力する方々のプロジェクトや経験に触れると同時に、私はそれらの問題にどうやって関わっていきたいのか、どの地域、どの分野に関心を持っているのか、をととても問われているように感じた。特に世界を舞台に活躍する国連職員の方々にお話を伺ったことが印象に残っている。国連職員として働くその奥に「自分が何に興味があり、何をしたいのか」という強い軸を皆様が持ち続けていらっしゃるから。現在の業務に限らず、それまでの途上国における現場経験や政府機関でのキャリア形成についても将来のヒントや道標となるお話で、日本にいては得られないものばかりであった。

今後も BPW のイベントに参加したり、様々なバックグラウンドを持つ方々のお話を伺ったりすることで、インターンで得た経験をさらに価値あるものにしていこうと思う。最後となったが、改めて貴重な機会を与えてくださったすべての方々に心より感謝の意を表する。



Leaders' Summit にて BPW の会長と



本会議場にて

3-3. インターン個人報告：「違い」と「共生」

西岡 真由美（ウィメンズカウンセリング京都）

【参加の動機や背景】

右側の写真では、私自身の姿は小さく、よく見えないかもしれないが、実は現在大学生の子どもが 2 人いるような、そこそこの年齢なのである。そのような私がなぜインターンとして参加できたかという点、2020 年 3 月に開催予定であった CSW64 のインターン募集当時、臨床心理学を学ぶ大学院生であり、国連の活動に大変興味を持っていたからだ。BPW の布柴副理事長は大学院の先輩で、BPW とは別の機会にお会いすることがあり、その際に自身の興味をお話したら、インターンに応募することを勧めて下さった。そのような訳で、インターンに応募させていただいた。



自分の高校生のころ、TIME 誌に載っていたボスニア・ヘルツェゴビナでの“民族浄化”という恐ろしい名前のついた虐殺写真にショックを受け、それから平和のために何かできないか、とずっと思ってきた。結婚や子育てを通じて、世の中にはジェンダー不平等という構造的な暴力があることを実感し、ここ 8 年ほど、私は性暴力被害者ワンストップ相談支援センターで働いたり、自治体の女性相談での面接相談や電話相談を行ったりしている。Gender Based Violence(GBV)の被害者は、実は女性だけではなく、男性や性的マイノリティの人々も被害に遭っているが、それぞれ異なる社会的背景があり、個人の抱く思いも、社会から受ける圧力も異なる。どの問題も、とてもローカルな事情も関係してくるが、世

界的にはどのような現実があり、どのような動きがあるのかを知りたかった。特に、ジェンダー平等にどう男性や性的マイノリティとも共に取り組んでいけるかという興味があった。

現在、大学で心理士として留学生の相談業務にも携わっているが、相談者の背景となる言語、文化、宗教、政治体制、経済状況などは、当然のことながら一人一人異なる。日本という場で、異なる背景を持つ彼女ら彼らは、様々な違和感や摩擦、不安を感じ、生活をするため日本や大学のシステムの謎解きをしながら手探りで進まざるを得ない困難を抱えている。国連という世界最大の組織で、上記に挙げたような様々な「違い」を包摂しながらジェンダー平等という目的のために合意を作っていくのは、とても果てしないような作業であるように思えた。そのような「違い」をいかに乗り越え、地球に生きる一人一人が生きやすい社会を作っていけるのか、実現のための具体的なプロセスにも大変興味があった。

年齢的なこともあり、実際インターンとして採用していただけるか不安も大きかったが、多様性を尊重する BPW の土壌のおかげか、有難いことにインターンとして採用していただいた。その後 2019 年秋から 2020 年 2 月にかけて、渡航の準備や CSW や国連組織について勉強をしていた。しかし渡航の直前で、新型コロナウイルス感染拡大のため、CSW64 は縮小開催となり、すべてのサイドイベント・パラレルイベントは中止となった。ニューヨークでのまだ見ぬ出会いに心弾ませていた矢先の出来事であった。

翌年の CSW65 はフルオンラインで開催されることとなり、BPW の皆様のご厚意で参加させていただくことができた。日本にいながら、ジェンダーに関する世界の様々な現状や取り組みを知ることができ、大変興味深かった。画面越しに知識を得たり、人々と交流できる高揚感はあったが、一人真夜中に起きて画面にかじりつく孤独感もあったのも事実だった。

そして満を持しての現地開催。オンラインではあまり考えなくてもよかった身体性のことを強く意識した。病気やケガをしては行けなくなるし、現地でも様々な会場に実際に足を運ぶ必要がある。身体性には様々な制約があることを再確認したが、同時に、特定の場所世界から来た人々と会うことで、人の発する熱気や切実さ、怒りや喜びのようなものを直に感じることができ、対面で人と会えることの有難さをしみじみと感じた。

【オンライン環境へのアクセスの重要性と危険性】

話を少し前に戻そう。2020 年 3 月以降、世界的に新型コロナ感染防止のため、急速にオンライン化が進んだ。日本では同年同月から学校が一斉休校となった。オンライン化が進んだとはいえ、家に wifi があるか、オンラインが使える端末があるか、端末の扱いに使い手がどの程度精通しているか、によって、受けられる教育の質は異なり、公立校と一部私立校の教育格差などが問題視されたのもこの時期である。当時、私自身も大学院生で、学部生の心理実習のインストラクターをしており、どのように教育内容や質・公平性を担保できるか、仲間や先生方とともに四苦八苦した記憶がある。

今回の CSW67 の優先テーマは「ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成のためのデジタル時代における革新、技術変革及び教育」であったが、CSW67 下の様々なイベントなどに参加しデジタル環境にアクセスできることがいかに重要であるかと

いうことや、デジタル技術を含んだあらゆる STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics 科学・技術・工学・数学) 領域での技術変革・研究・教育に女性が参加していけるようにすることの重要性を確信した。コロナ禍で感じた不自由さやオンラインの可能性と限界は、政治的文脈でも十分に議論されるべきことなのだと痛感した。

CSW には、NGO も深く関わっているが、例年、公式会議の開催前日に NGO CSW が主催する Consultation Day というイベントがある。コロナ禍前の 2019 年度までは、大きな会場で 1 日ばかりで行われていたが、2021 年度 (CSW65) から今年にかけては、フルオンラインで行われている。今年は、3 月 5 日 (日) 10:00~13:00 に行われた。(本ページ内の写真は、Consultation Day の議論のまとめとして挙げられた、合意事項への提言。ぱっと見でとてもカラフルで興味を引く。)

本イベントでは、UN 関係者やアフガニスタン、ジンバブエやカメルーンなど世界各地の NGO の代表や若者が現状の共有と問題提供を行った。私は個人的に、Emma Gibson (Equality Now Campaign Lead) のスピーチが大変力強く、印象に残った。

CSW67 全体の合意結論でも述べられていることだが、彼女は、デジタルテクノロジーについて 3 つのキーポイントを挙げた。

- ①世界の人口のうち半数がインターネットにアクセスできていないと言われている。
- ②女性は男性に比べてオンラインにアクセスできていない。このことによって、政治的決定の場に参加できず、男性と同等の経済的機会を持ってない。すなわち自分自身に関わることなのに社会生活にフルに参加できていない。しかし同時にオンラインの世界では、リアルな世界に蔓延する女性差別や偏見が増幅されている。
- ③女性がデジタルテクノロジー分野において意思決定できるポジションにいない。

デジタルテクノロジーへのアクセスは、人の尊厳を守ることを加速させもするが、どの国にも適用されるような規制がなければ、例えば違法ポルノなどは規制のない国に拠点を置いて活動できるように、容易に暴力への抜け穴を作ってしまうことが共有された。

私としては、デジタルにアクセスできない人々の存在も無視できず、すべてをオンライン化するのではなく、アナログなチラシやポスター、「回覧板」のようなものの重要性も改めて感じた次第だった。

【政治的混乱とオンライン環境、教育について】

その後参加したパラレルイベント (タイトル: Equality in education for eliminating violence against women and girls (VAWG), 主催: EuroMed Feminist Initiative, and Women's UN Report Network (WUNRN)) で、シリアの現状やジェンダー平等を推し進めるうえでの教育の重要性が説かれた。現在シリアは一時期ほどの紛争状態ではないが、今も大きな政治的混乱が続き、人口の 90% が食料と安全の危機に瀕しているとのことだった。



今年 2 月には大きな地震があったり、イスラエルからの空爆があったりと、追い打ちをかけるかのような出来事が続いている。紛争中、学校のうち 3 校に 1 校は破壊され、またパンデミックの影響で、現在のシリアの教育はオンラインが中心である。とはいえ、そもそもオンラインといっても、インターネット回線・機器・精通度の問題で教育を受けられる人は大変限られている。加えて、紛争下で教育の優先度は下がり、特に女性の就学率が下がった。通学に地雷を踏んだり、性暴力や身体的暴力などの対人暴力を受ける危険を伴う地域においては、オンライン環境は情報を得、人々や社会とコミュニケーションを取るツールとして必要不可欠なものである。しかし、家父長的な考え方のもと、家族（の中の権力者）が「女性に教育は必要ない」と考えれば、物理的にオンラインにアクセスできる環境にあっても女兒や女性がアクセスすることはできなくなり、知識も技術も身に着けられず、多様な価値観に触れる機会も失われる。そして家事労働の担い手にされたり、早婚させられたりする。女性の退学率は、紛争前の 2.4 倍に上るそうだ。

イベント内で、子どもの教育の重要性、“Peace starts from school.” という力強いメッセージが届けられ、知識や技術はもとより、ジェンダー平等の概念や性暴力（どのようなことが性暴力にあたり、一人一人に性的自己決定権があること、影響や被害に遭ったらどうしたらいいかなど）を含む性教育もすべての子どもに届けられるべきであることが語られた。教育は今現在の何かを実践的に解決するような営みではなく、未来への投資であるため、今のちをつなぐこと自体が困難な場所にあっては、優先順位が下がってしまうことも現象として理解できないわけではない。しかし、発達の過程にあって様々な刺激に敏感な子どもに、偏りのない、分断や憎しみ・痛みをもたらないような教育を届けるのは、社会として、大人として必須の責任であり、決して後回しにしてはいけない義務だと痛切に感じた。

【社会の意識を“変える”には？】

現在日本でも、ジェンダーに基づく生きづらさをなくしていくため、様々な分野の人々が声を上げ、変わりつつあるものもある。しかし概して人々の意識というものはなかなかすぐには変わらない。そこに変容がもたらされるには、どのような人々がどんなアプローチをしているのか、ということにも強い興味があった。そのような意味で、“Engagement of religious and cultural leaders, challenges and opportunities in promoting gender equality and empowerment of rural women”（主催：Youth Alive LTD）からは大きな示唆を得た。現在、アフリカでは今も家父長的な考え方が強く存在し、早婚を強いられ教育を受ける権利を享受できない女性も多い。また、特にサハラ砂漠以南のアフリカでは、教育を受けられないことや社会的に弱い立場にあって性暴力に遭いやすい女性の HIV 感染は深刻な問題だ。イベントでは、アフリカの人口のうち 74%が何かしらの宗教を信仰しており、社会生活を送る上では宗教指導者の影響は大きいことが紹介された。私たちインターンは、パラレルイベントでジェンダー主流化を取り上げたが、アフリカでは、統計や欧米諸国などから来た外側の人間の働きかけより、宗教や文化的な指導者の言葉の方がものを言うようだ。今回、UNDP の職員の川瀬氏・横井氏からもお話を伺ったが、女兒が教育を受けられるようにしたり、性行為の際のコンドーム着用など、社会の枠組みや人々の行動・習慣の変容を促したい場合、そのような考え方に理解を示す地域の指導者を探して、そのような

人を通じてコミュニティに働きかけを始めるのだ、ということだった。本イベント内で、ウガンダの宗教指導者である James Byarugaba が、ウガンダ内での彼の組織（Youth Alive Uganda）の取り組みを紹介した。

ウガンダでは、宗教指導者の多くは、女性の人権の尊重や、避妊というのは西洋的な考えで、伝統的なウガンダ社会に脅威をもたらすと考えているが、Youth Alive Uganda では、60 人の宗教・文化指導者を招き、性と生殖に関する権利や避妊について伝え、小グループに分かれて話し合いを持ってもらったそう。その後、出席した指導者が地域の若者に働きかけたとのこと。「子だくさんで、大きな家族こそ理想」という昔からの考えを持つ一部の



の人々には煙たがられることもあるようだが、耳を傾ける人も確実にいるようで、このように宗教指導者や地域の指導者と協力しながら進めていくことの重要性を強く感じた。ジェンダー規範による生きづらさは、女性だけが感じているものではなく、すべての人々が感じているものだと思う。（写真は、“Feminist conundrums of working on men and masculinities: global perspectives” というパラレルイベントで配られたメッセージ入りのバッグ。）声高に権利を主張することも大切だが、変化をもたらすためにはどうしたらよいのかを、柔軟に、実質的な観点から考えていくこと、性別を超えてコラボレートしていくことの大切さを思った。

【ジェンダー規範による生きにくさの解消にどう男性や性的マイノリティと協働できるか】

“Men & Boys: Revisiting Sustainable Development Goal 5” というパラレルイベントでは、男性や少年もジェンダージャスティス（正義）やジェンダー平等を目指す動きに含まれること、男性や少年、中でも有色人種など社会的にマイノリティ的な立場の男性は身体的暴力の犠牲になりやすかったり、自殺既遂の割合は女性よりも高いことが共有された。私は、男性も性被害に遭っているが、誰にも言えずに一人で苦しみ続ける人も多い、どうしたら男性被害者が援助を必要とする時に援助要請できるようになるだろうか、と質問をした。それに対して、心身ともに安心できる空間の確保や、自分を隠さなくても感じることをそのままに表現でき、共有できるような circle of trust(信頼の円環、場)を作っていくことが重要だと思う、という答えをいただいた。私としても、特に“力”がものを言う男性社会において、強がる必要なく、「勝つ」必要もなく、「弱い」と思われるようなことでもそのまま表現できて受け止められるような場があり、安心して他者と協働作業していける環境を作り続けることは、ジェンダー平等を推進するうえでも、平和を構築するうえでも大変重要なことであると思った。

これはインターン活動全体を通じて感じたことだが、一人一人が自らの持つ「力」や、関係性の中で避けがたく自分に作用している「力」に自覚的になり、その力の及ぼし得る影響を意識化し決して悪用しないように留意して（悪用されたら声を上げたり逃げたりし）、相互的なコミュニケーションの成り立つ社会を作っていかなければならないと思った。

4. 現地情報について

インターンとして渡航し、ニューヨークで2週間生活するにあたって、自分たちが経験したことをお伝えします。今後インターンとなる方々、検討されている方々の参考になれば幸いです。

●生活編

<ホテル情報>

・ホテルはBest Western Plus Hospitality House SuitesとPod51の二ヶ所に滞在した。

Best Western Plus Hospitality Houseは国連本部まで徒歩10分ほどの位置にあるコンドミニアムのホテルである。3/2～3/4のリーダーズサミット期間中は3人で、3/11～3/17は4～5人でルームシェアをした。バスルーム、キッチン、ツインルームのお部屋、キングベッドのお部屋、リビングダイニング（ソファベッド）があり、数人で滞在するにはいい場所であった。また、体調を崩した際も部屋がいくつかあったおかげで隔離することができた。スーパーで買った食材で料理したり、朝食付きで部屋にも持って帰ることができたり、食事の面でも不自由なく過ごすことができた。

Pod51はBest Western Plus Hospitality Houseよりリーズナブルなホテルである。CSW期間中少しでも費用を抑えるため、奥山さんと同じ部屋に滞在した。国連本部までは同じく10分ほどで、Best Western Plus Hospitality Houseまでは2ストリートしか離れていなかったため、イベントの打ち合わせ等にも便利な立地であった。共用トイレ・シャワールのプランもあったが、衛生面と安全面を考え、シャワールームとトイレがついたダブルベッドのお部屋にした。ベッドは横向きで使用し、少し足が出るため、キャリーケースを足元において寝た。大きな懸念点としては、シャワールームがガラス張りで見えの状態で、1人がシャワーを使っているときは死角に移動して作業したり、1階の共用スペースに行ったり、お互いに配慮しあって過ごした。こちらのホテルは朝食付ではなかったため、Best Western Plus Hospitality Houseに滞在されていた布柴さんと中山さんのご厚意で朝食を頂きに行くこともあった。（奥崎）

・西岡は、45th St.とLexington Ave.の角に立つClub Quarters Hotel Grand Centralというホテルに滞在した。値段は少し高かったが、部屋も清潔で、シャワーのお湯も、温度も量も問題なく使え、とても快適に過ごすことができた。27階にはコーヒーマシンのあるラウンジがあり、コーヒー、カプチーノ、ホットミルク、お湯など無料でいつでもいただくことができた。朝食はついていなかったのも、毎朝このマシンでホットミルクをもらい（大きめの紙コップも自由にもらえる）、それにシリアルを入れて食べていた。各階にボトルウォーターのサーバーも設置されていて、水も自由にもらえた。冷蔵庫がないのが難点ではあったが、牛乳の問題はコーヒーマシンで解決されたので、あとは冷たい飲み物はその都度小さめのパックなどを開けて飲むことにしていた。（西岡）

・ホテルから国連本部までのアクセス

ホテルから国連本部までは徒歩10～15分程度。自分でホテルを手配する場合は国連本部との距離を把握して徒歩圏内で探すことをお勧めする。（奥山）

<食事について>

・NY は物価が非常に高かったため、個人的には外食やカフェの利用はできるだけ控えるようにした。ただ、あくまで私の場合なので、予算内でやりくりすれば問題ないと思う。幸いなことに、朝食や夕食をホテルで一緒にとらせていただくことが多く、食費面を抑えることができた。昼食に関しては、朝食の残りを持参するか、国連本部内のカフェでも軽食を購入することが可能（例えば、ベーグル 1 個で約 240 円）。NY は水道水を飲むことができないので、ホテルのウォーターサーバーを使用する、もしくはスーパーで購入していた。（奥山）



BPW メンバーとの夕食



ホテルのウォーターサーバー

・私は、一人で食事を調達する際は、スーパーの総菜コーナーの量り売りや、ホテル近くにある個人商店みたいなお店のテイクアウトを利用していた。UNHQ の近くに、Morton Williams Supermarket というスーパーがあり、そこに結構色んなものが置いてある総菜コーナーがあった。コーナーに置かれている容器に好きなもの（チャーハンのようなものや、スペアリブ、具沢山のサラダなど色々ある）を入れて、蓋をし、レジに持っていく。1 ポンド（454g）9.99 ドルで、とても安いという訳でもないが、ちょっとずつ色々試したい場合など、重宝する。お店のテイクアウトでは、メキシカンのお店があり、タコス頼んだが、こちらも 9 ドルくらい。ちなみに Subway のサンドイッチも、6 インチサイズで 9.5 ドルだった。インフレや円安の影響で、物価はどれも高いと感じた。

UNHQ 内の地下のカフェでは、ハーフサイズのスープが 4.7 ドルだったので、それとドリトス、コーヒーを昼食にしたこともあった。（西岡）

<洗濯について>

滞在が 2 週間となると、まるまる 2 週間分の着替えを持っていくことは現実的ではなく、洗濯をしながら回していく、というのがよいように思った。私は 1 週間の滞在だったが、基本的に 3 日分の着替えなどを持っていき、適宜洗濯して回すようにしていた。滞在ホテルにコインランドリーはなく、頼めるドライクリーニングは恐ろしく高かったため、洗面所で手洗いをしていた。日本から、旅行用の洗濯洗剤（アタックの小分けパック）と、ピッチつきの折り畳みハンガー（ネットで買った）を持っていき、シャワーを浴びた後に毎日洗って、室内に干していた。室内はとても乾燥しているため、丸一日あれば乾く。加湿効果もあり、なかなかよかったと思う。また、NY 市内に、コインランドリーのようなところ

ろもあるようで、以前の報告書（CSW63・右の QR コードから）に詳しく書かれている。（西岡）



● 観光編

NY を観光する際は NY City Pass (<https://ja.citypass.com/new-york>) を購入した。チケットは数種類あるがその中でも 3 つの観光スポットで使用可能なチケットを選んだ。有効期間は初回施設訪問日から連続 9 日間。チケットを購入すると、予約と施設の選択を行うためのリンクが記載された電子メールが届くので、そこから時間の予約を行う。個々で購入するよりも安価で済むことが魅力的だが、組み合わせによってはチケット代が上回るため注意すること。

以下の内、3 つの観光スポットに 1 回だけ入場できる。

エンパイアステートビル、トップ・オブ・ザ・ロック展望台、自由の女神像とエリス島へのフェリー移動、9/11 メモリアルとミュージアム、アメリカ自然史博物館、ニューヨーク近代美術館（MoMA）、サークルライン観光クルーズ、イントレピッド海上・航空&宇宙博物館、グッゲンハイム美術館、シティクルーズ、ハドソンヤード エッジ展望台（奥山）

9/11 メモリアル&ミュージアム

言わずと知れた 2001 年 9 月 11 日に起こった同時多発テロを記憶し犠牲者を追悼するための施設。飛行機の追突により破壊されたワールドトレードセンター跡地は、リフレクティング・プールとして、水が上から下に流れる人工池のようになっていた（写真）。プールの縁には、テロで命を落とした人々の名前が記銘されている。ミュージアムの中には、炎上したタワーのアンテナや、歪んだ鉄筋など、当時の破壊跡が生々しく残るものが展示されていた。当時の報道のビデオ映像が流れ、犠牲者の写真が一堂に飾られている部屋もあり、このような惨事で命を失った方々の無念を思うと言葉がなかった。同時に、ミュージアムの入り口では厳しいセキュリティ・チェックがあり、今でもここは政治的な場所なのだな、という思いを強くした。自分の主張を暴力に訴えることは絶対に許されないことだ。同時に、このようなテロが起こった背景にある複雑な歴史にも思いを馳せざるを得なかった。また、破壊跡については、以前行ったことのある原爆資料館での展示も思い起こさせ、加害と被害、戦争というものについて深く考えさせられた。コミュニケーションや利害関係の調整、利害対立が起こらないようにするための環境保全や調整など、国連が行ってきたこと・行おうとしてきたことの意味を改めて感じさせる訪問となった。（西岡）



メトロポリタン美術館

世界中から収集された逸品のコレクションがあり、その美術品の種類や時代の範囲は非常に幅広い。芸術や歴史に興味のある人には必見の場所。館内は 17 の展示エリアに分かれていて、世界的に有名な芸術家たちの作品が収蔵されている。例えば、ヴィンセン

ト・ヴァン・ゴッホ、ピカソ、ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、レンブラント、モネ、セザンヌ、ゴッホなどの作品を見ることができる。（奥山）

エンパイアステートビル

世界的に有名な超高層ビルであり、その建物自体が魅力的な観光スポットで、完成時には世界一高いビルだったとのこと。現在は、ビルの頂上からの眺めは迫力があり、NY の美しい景色を一望することができる。夜景も絶景なためおすすめ。（奥山）



メトロポリタン美術館



エンパイアステートビルの夜景

● 交通について

・ 空港から NY 市内

空港から NY 市内まではイエローキャブで移動した。注意すべきことは JFK の手続きを終えて外に向かう道中で足元の標識に従い、公式のイエローキャブに乗ることである。ホワイトキャブの運転手の方が正面の出口に立っているが、そのホワイトキャブは大変危険であるため言っていることに惑わされず、公式のタクシー乗り場に行く必要がある。安全と言われていたイエローキャブも一概して良いとは言えなかった。行きで乗ったドライバーの方の運転が荒く、何度も車線変更をしたり、動画を見ながら運転したりと一つのアトラクションに乗っているようで怖かった。過去に酔った経験がある人は酔い止めを服用しておくことをお勧めする。

帰りは Uber を使いホテルから JFK まで向かった。事前に予約することができ、ドライバーの評価も見ることができる。また、登録したカードから料金と選択したチップが引き落とされるため、降りる際に料金のことを考える煩わしさはなく利用することができた。（奥崎）

● 持ち物（あったら良いなと思った物・あって良かったと思った物）

お金

現金はチップくらいでほとんど使用せず、基本的にはクレジットカードを使用していた。現金もチップのために使うのであれば 10 ドル、20 ドル紙幣で十分だと感じた。デビットカードを持っているとそのまま口座から引落としになるだけでなく、現金が必要になった時でも現地の ATM で引き出せるため便利。（奥山）

ディナー用の服装

Clare Fulture Dinner で着用するための服装はこだわりがなければ特別に持参する必要はないと思われる。パラレルイベントなどに参加する時のようなブラウスにジャケットスタイルで参加したが問題なかった。参加者の中にはドレスを着用している方もいた。（奥山）

防犯対策

スリなどの犯罪に巻き込まれないためにも持ち物も工夫した方が安全だ。例えば、スマートフォンは首からかけるスマホケースを使用し、ショルダーバックを使用して貴重品が自分の視界に入るようにしていた。（奥山）

スリッパ

ホテル内にはスリッパがないので日本から持参するか、行きの飛行機で提供されるスリッパを持っていくのが良いと思う。かさばらなく使い捨てが可能なので、後者がおすすめ。（奥山）

キッチン用品

現地で簡単な自炊をしたり、買ったものを保存したりする際にラップやタッパを持参するのが便利。現地でも購入可能ではあるが、特にラップに関しては日本製に勝るものはない。（奥山）

モバイル Wifi

UNHQ 内、ホテル内では wifi が使用できるが、路上で地図を見たり、wifi が通じないところでメールや LINE を確認したりするために、あるいはホテル内の wifi の調子が悪い場合のためにモバイル wifi を持っていても良いかもしれない。私の場合は、ソフトバンクの携帯で、「アメリカ放題」というサービスがあり、アメリカ・ハワイでは電話通話・データ通信、SNS 利用が無料でできた。ただ、本当にできるのか不安があったため、私は保険としてモバイル wifi を持っていった。とはいえ、モバイル wifi がなかったとしても、wifi を使えるところで、地図を表示させ、それを写真に撮ったりしておけば、外でも特に困らないかもしれない。今後、CSW がハイブリッドで行われる流れができるとすると、ホテル内で wifi が使えないと不便かもしれず、ホテルの wifi の安定性については事前に口コミなどで調べるとよいと思う。（西岡）

その他

持っていけばよかった、と思うものとしては、爪切り。1 週間の滞在だったので、持っていかなかったのだが、日々の活動の記録のためにパソコンも良く使い、キーボードを叩く際に爪が当たって気になった。ホテルでも借りられず、買うのは高いと思った。（ハサミは別に持って行って、それはよかったと思う。スーパーで買ったリンゴの袋を開ける際などに使えた。）（西岡）

● NY での療養体験

10 日ごろから喉が乾燥していることを感じていたが、12 日になって発熱と酷い喉の痛みにより声が出せなくなった。持参していた抗原検査では陰性であったこと、その日が日曜日であったため、解熱剤を飲んで 1 日様子を見ることにした。その時はルームシェアをしていたので LINE でお部屋の皆様に連絡をし、対応していただいた。また、もしもの時に備えて加入している保険の情報を共有したり、帰国組にも連絡して体調に問題はないか確認したりしていただいた。

13 日朝、再度熱を測り微熱になっていたが、抗原検査で陽性反応がでてしまったため、保険会社に連絡してもらい、保険会社と契約を結んでいる病院へタクシーを使って向かった。オンライン受診も可能ではあったが自分では声に出して伝えられないため、対面を選んだ。タクシーは Uber を使い、声が出せなくても目的地まで問題なく向かうことができた。病院ではコロナ・インフルエンザ・その他感染症の検査、肺の検査をしてもらい、薬を出していただいたが、コロナ用の薬は薬局でしか受け取れなかったため処方箋をもって薬局へ向かった。薬局では確認のため生年月日を聞かれたが、かすれ声でパネル越しでは伝わらない声量だったため、スマホのメモ機能を使ってやり取りをした。料金は保険に入っていたためタクシー代しか出しておらず、そのタクシー代も帰国後に請求することができたため、実質何も支払わずに受診することができた。



処方された薬

ホテルでは中山さんをはじめ現地メンバーの方々に看病していただいたり、日本にいらっしゃる方々にも療養のアドバイスや保険会社に繋がらなかったときに日本から電話して対応していただいたりした。食欲はあったため、おかゆをつくっていただいたり、お味噌汁やゼリー飲料を分けていただいたりと、皆様のおかげで体調も回復し、出発前日には症状はなくなり、当日には検査も陰性になり無事帰国することができた。また、常に消毒したり、御手洗に行く際は手袋をつけるなど徹底した感染対策のおかげで、私以外に体調を崩す人はいなかった。



療養中の食事

この療養期間中に感じたことは「日本とアメリカのコロナに対する考え方の違い」と「母国の食の偉大さ」である。病院の先生から、コロナの隔離期間は 5 日間ではあるが強制力はなく、自己判断であり、実際にコロナで無症状の人は何万といるから買い物程度なら外に出ても良いと言われた。また、問診で食事について質問された際に、日本食が食べられているのであれば回復は早いだろう、実際に母国の料理を療養中に食べて回復が早かった事例もあると仰っていたため、ホテルで日本食をつくっていただいたことに心から感謝した。（奥崎）

第 21 回 CSW インターン募集

2024 年国連女性の地位委員会(CSW 68)
へ派遣する女性インターンを募集します

認定 NPO 法人日本 BPW 連合会は、国際問題に関心を持つ若い女性を対象に、毎年ニューヨークの国連本部で開催される女性の地位委員会 (CSW) に派遣するインターンを募集します。



募集目的 国際問題・国連問題・ジェンダーの問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う女性を支援する目的で行われるもので、国連本部及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。

CSW68 の優先テーマ: Accelerating the achievement of gender equality and the empowerment of all women and girls by addressing poverty and strengthening institutions and financing with a gender perspective.

期 間 国連女性の地位委員会 (CSW) は、国連本部で毎年 3 月上旬に 2 週間の会期で開催されます。事前の登録手続きや BPW インターンの顔合わせなどの都合で、現地滞在は、CSW 開会前々日から前半 1 週間を含む 10 日以上を推奨します。さらに他のイベント・プログラムに参加希望の場合は、早めの現地入りが必要になります。

- 6 つの特典**
- 「パラレル・イベント」(NGO が主催するイベント) を企画・運営し、世界の NGO と交流できます。
 - CSW 本会議と平行して行われる様々なイベントやワークショップに参加し、発言し、意見を述べるすることができます。
 - 国連や CSW に関する説明や解説を事前あるいは現地で受けることができます。
 - 日本政府代表部がおこなう NGO 参加者を対象とした公式説明会に参加できます。
 - 世界各国の女性団体の参加者と交流できます。
 - 国際関係・ジェンダーの問題を専攻する学生は、論文作成などのための最前線の資料を入手できます。
- ※ さらに BPW に入会すると、国際 BPW (IFBPW) の会員ともなり、IFBPW 主催の各種活動 (CSW 開始前に実施されるリーダーズサミットやワークショップ、交流会など) に参加できます。

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ 20 歳～35 歳の女性、若干名。パラレル・イベントの企画・運営、事前勉強会への参加、関係各所への表敬訪問、ニューヨークでは日本政府国連代表部のブリーフィングへの参加など、インターン活動を優先していただける方。帰国後は、報告書 (日・英両言語で、活動写真含) を作成し日本 BPW 連合会に提出いただく他、BPW が企画するイベント (報告会・NWEI インターン報告・各地の BPW 活動) などに参加いただける方。

費 用 航空運賃・宿泊費・生活費は原則自己負担。海外旅行保険も自己負担になりますが、必ずご加入ください。また、NGO ブリーフィングや有料イベントへの登録料も、原則各自負担になります。但し、BPW が行うイベントの有料部分は日本 BPW が一部補助します。

応募方法 E-mail にて、応募必要事項記載の上、小論文で応募動機および国際問題・ジェンダーの問題・国連に関するあなたの意見を日本語 (1000 字前後) および英語 (500 words 以内) で述べ、添付・送信してください。

応募・問合せ csw2024@bpw-japan.jp (日本 BPW 連合会インターン担当) 件名「UN-CSW インターン」と記載してください。

応募〆切 2023 年 9 月 10 日 (日)

結果発表 2023 年 10 月 10 日 (火) までにメールで連絡します

【応募メールへの必要記載事項】

応募メール本文または、添付ファイルに記載願います
氏名 (ふりがな) 住所 連絡先 (電話番号・メール)
生年月日 所属/大学 (学部・専攻) 又は職業
履歴 高校卒業以後の履歴 (学歴・職歴等)
滞在可能期間 (予定)

【必要添付書類】

小論文「応募動機及び国際問題、または女性問題、あるいは国連に関する意見」
日本語で 1000 字前後、英語で 500 words 以内
※小論文は日本語・英語の両方の論文を提出して下さい
(word あるいは text ファイルでメールに添付)

※ 選考にあたり、インタビュー (面談・オンライン) を行います。
また選考後、BPW の事業主旨にそぐわないと判断される場合は、派遣を取り消すこともあります。

その他 最新情報・募集要領・メールフォームは、下記 BPW のホームページにも掲載しますのでご参照ください



- ☆ CSW は United Nations Commission on the Status of Women の略。
1946 年、国連経済社会理事会の機能委員会の一つとして設置。年次会合は 3 週目の金曜日頃に合意結論が出て閉会する。
- ☆ IFBPW は、国連経済社会理事会から総合協議資格を付与された国際 NGO で、日本 BPW は IFBPW の加盟団体です。



認定 NPO 法人 日本 BPW 連合会 2023.5.26 発行（頒布価格 1,000 円）

〒151-0052 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館ビル 303

TEL 03-5304-7874 FAX 03-5304-7876

E-mail office@bpw-japan.jp URL <http://www.bpw-japan.jp>